

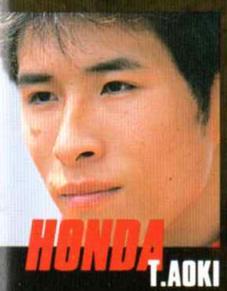


SUZUKA SUPERBIKE 100miles

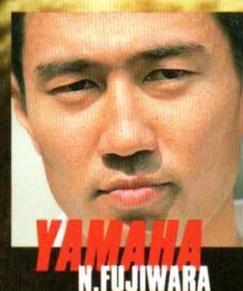
'96MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦 鈴鹿スーパーバイク100miles

3/16 予選 SAT. 17 決勝 SUN

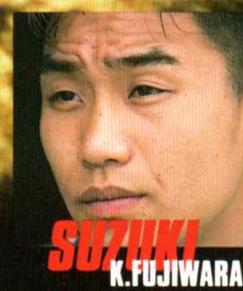
RACE START	
GP125	10:45
GP250	12:40
SUPER BIKE	14:00
SUPER NAKED	15:45
(東コース)	



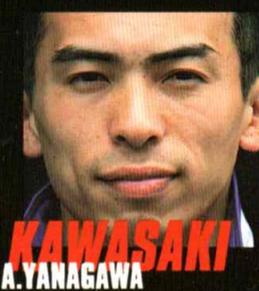
HONDA
T.AOKI



YAMAHA
N.FUJIWARA



SUZUKI
K.FUJIWARA



KAWASAKI
A.YANAGAWA

© 1996 Brown & Williamson Tobacco Corporation

LUCKY STRIKE レーシングインフォメーション

03-3490-7878

最新のレース情報を24時間お届けしています。



タール11mg / ニコチン0.9mg

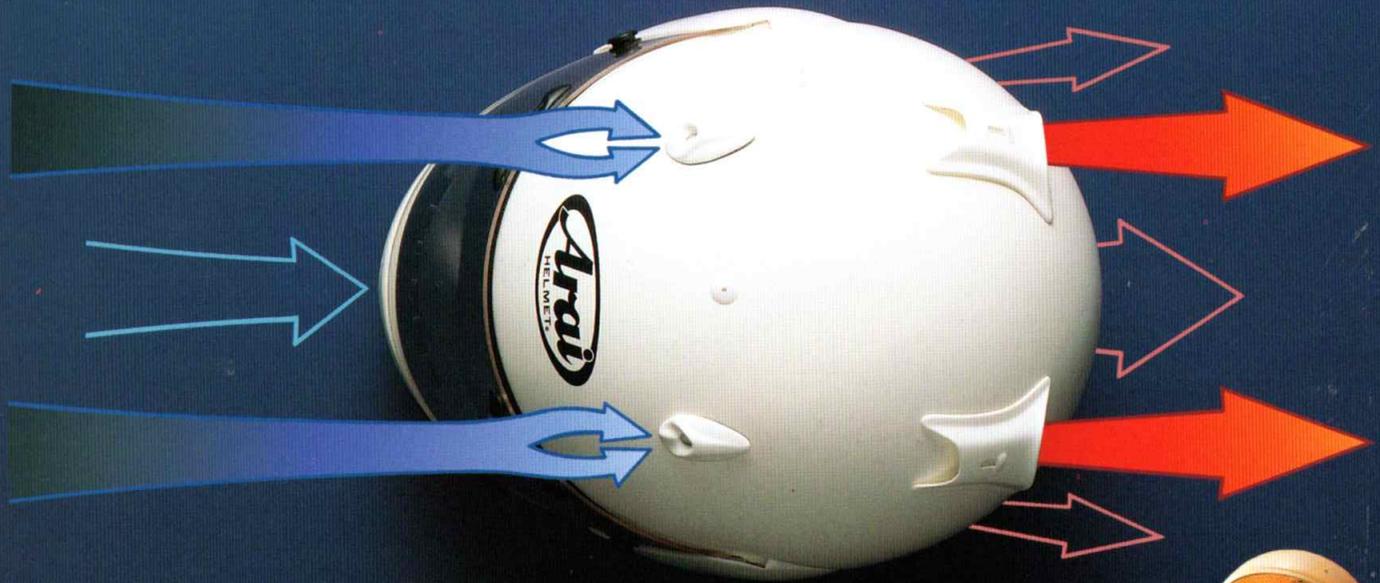
タール6mg / ニコチン0.5mg

AN AMERICAN ORIGINAL.

LUCKY STRIKE

未成年者の喫煙は禁じられています
あなたの健康を損なうおそれがありますので吸いすぎに注意しましょう

28%UP×2:数値が語る、 勝つためのレーシング・スペック。



ラバイド……それは、勝利のために生まれた。
1984年の登場以来、勝つためのギヤとして性能を磨きつけて来た。
そして、12年目。ラバイドは、スーパーcLcの骨格を持つ、レーシング・スペックを
フル装備した「V」のエンブレムをつけて
サーキットに登場する。



冷却効率をさらにアップした ベンチレーション・システム。

吸気を受け持つVフローダクトは、フォーミュラダクトをさらにブラッシュアップ。吸入孔と前後に突起と壁をバランス良く配置することにより、流入するエア量を増加させるNATS(Negative Air Trapping System)を新開発した。また、排気を受け持つRAMエアダクトでは、ヘルメット表面を流れる気流を積極的に利用するため、新フォームに変更。空気抵抗が少なく、風きり音を抑えた設計に加え、広範囲な方向性をも獲得している。たびかきなるテストで磨きあげたベンチレーションシステムで得られた結果は、さらなる冷却効率の向上。その冷却性能は、フォーミュラダクトとの比較においても、冷却効率を決定するヘルメット内部の風量を見ると、Vフローダクトでは約29%アップ。RAMエアダクトでは、約**28%**もアップしている。好みやシーズンにあわせたセッティングが可能とするため、フロントのVフローインテーク、リアのRAMエアダクトとも**3段階**で流量調整ができる。また、Vフローダクト、RAMエアダクトとも、**エアロダイナミクス**技術を駆使し、ヘルメット内に効率の良いエアの流れを生み出すとともに、外部気流による空気抵抗を抑えるフォームを得ている。



強く、軽く、レーシング仕様の スーパーcLc帽体を採用。

レーシング用ヘルメットに求められる強靭さと軽さ、そしてフィット感。この相反する要素をクリアした帽体が**スーパーcLc**だ。その製造工程は、F1レーサーの**65%**が愛用しているヘルメットと同一。もちろん、素材、基本構造なども「人を守るためのヘルメットには、特別仕様などない」というアライの姿勢のもと、同一のものが使われている。万一の時にこそライダーを守る**強靭さ**を確保する…。そしてGの影響を抑える**軽さとフィット感**を提供する…。ラバイドVは、アライの技術の頂点ともいえるスーパーcLc帽体を得て、さらにバトルを熱くする。

ティアオフシールド対応 スーパーアドシールドポスト付 デミストシールドを装備。

オイルや虫の付着から視界を守るティアオフシールドが簡単に装着できるスーパーアドシールドポスト付を装備。また、シールド内部の高い**曇り止め**効果を発揮しながらも、**キズ**つきにくいデミストシールドを採用。ベンチレーションシステムによる曇り除去効果とあいまって、クリアな視界を確保します。

- 
●ラバイドV専用フルシステム内装
- 
●ニューマウススリット
- 
●スーパーアドシールドポスト付デミストシールド
- 
●デミストロック
- 
●サイドアウトレット
- 
●ノーズディフレクター
- 
●オプション
スーパーアドシールドポスト付デミストシールド
クリア/スモーク ¥4,500
- 
●オプション
ティアオフシールド
5枚1組 ¥900

RAPIDE V

●アライ製品については、品質管理課までお問い合わせください。直通TEL(048)645-3661

●機種名:ラバイドV
●帽体: Super cLc(スーパー・コンプレックス・ラミネート・コンストラクション)
●規格: スネル1995 JIS C種
●内装: ラバイドV専用フルシステム内装(頬パッド調整可能-特許出願中)
●シールド: スーパーアドシールドポスト付デミストシールド標準装備(特許出願中)
●色: 白、黒 ●サイズ: (53-54) (55-56) (57-58) (59-60) (61-62)
株式会社アライヘルメット 〒330 埼玉県大宮市東町2-12 TEL(048)641-3825-7



¥38,000
(消費税は含まれません。)

モーターマガジン社
東京都港区新橋5-33-10 Tel.03-3434-3151(代)

オートバイ

毎月1日発売/定価550円

Mr. Bike モーターバイク

毎月6日発売/定価280円

Mr. Bike モーターバイク BG

毎月14日発売/定価320円

GOGGLE

毎月24日発売/定価500円

もう、ふりふりキレちゃってるとです。

いいな、欲しいな、がある。

スゲー、がある。ヤルじゃん、がある。

なに考えてんだ、バカヤロー、もある。

バイクファンの気持ちをも、

ギョギョツとつかむモーターマガジンの雑誌たち。

なかみ、ギツチリ。

もう、ふりキレちゃってて読むごたえです。

あなたの好きな一冊が、きっとこのなかにある。

モーターマガジン社から。



もう、好きで、好きで。
モーターマガジン社の雑誌



美しいだけがツールではない

見た目に美しいツールはいろいろある。
 しかしその真価は外見だけではわからない。
 特に現代のマシンに不可欠なデリケートな整備作業には、
 それにふさわしいものが必要だ。
 今、ハンドツールの頂点として、その仕上げや耐久性はもちろんのこと、
 とことんまで手への感触にこだわり、
 繊細な作業に見事に応える扱い易さをカタチにした
 新しいシリーズが完成した。

プロの要求に応える圧倒的なクオリティは、
 大きいかつい手のために作られた他のツールたちを完全に凌駕する。

nepros = NEW PROFESSIONAL SATISFACTION

その名はネプロス。

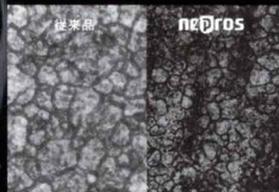
新登場

nepros

MIRROR 5GQ・KTC



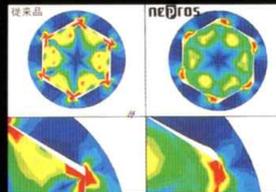
9.5sq. Socket Wrench/ 9.5sq. Deep Socket Wrench/ 9.5sq. Union Ratchet Handle/ 9.5sq. Spinner Handle/ 9.5sq. Extension Bar/ 9.5sq. Quick Spinner/ 9.5sq. Universal Joint/ 9.5sq. Spark Plug Wrench/ 45° Offset Wrench/ Flat Type Short Boxend Wrench/ Open End Wrench/ Combination Wrench/ Heavy Duty Diagonal Plier/ Long Nose Plier/ Angle Nose Plier/ Plier/ Adjustable Wrench/ Screw Driver/ Stubby Screw Driver



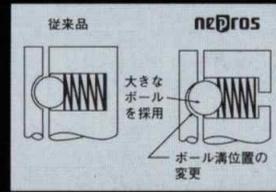
抜群の強靭さと耐久性
 KTCだけのオリジナル素材5GQを大手特殊鋼メーカーと共同開発。一般規格鋼材では不可能な高強度と耐久性を実現。



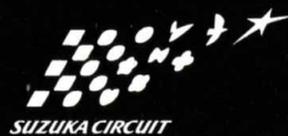
超コンパクト
 口径側の対角寸法を極限まで小さくし、高度な塑性加工技術を駆使して同時に軽量化。狭い場所での作業性を格段に向上。



Nパワーフィット
 許容加工公差を厳しく設定することでボルト・ナットとの嵌合ギャップを極限まで縮小。なおかつ、接触面を拡大する最適化設計をおこないトルク伝達効率を飛躍的にアップ。



フィット感に優れた操作性
 例えば駆動工具との接合時にガタつきを最小となるようボール溝位置/サイズを再検討。またラチェットの送り角を見直すなどさまざまな工夫を盛り込んだ。



SUZUKA CIRCUIT OFFICIAL TOOLS
 あの鈴鹿サーキットがネプロスをオフィシャルツールとして認定。パドックでのツールサービス&メカニックサポートも開始する

KTC 京都機械工具株式会社
 〒613 京都府久世郡久御山町佐山新開地128番地
 Tel (0774) 46-3700(代) Fax (0774) 46-3734

支店/東京03(3752)2261/名古屋052(882)6671/近畿0774(46)3711
 営業所/札幌011(824)0765/仙台022(231)6322/関東048(854)3213/金沢0762(91)4546/広島082(273)0202/福岡092(441)5637
 駐在所/四国0878(74)7288

ネプロス専用お問い合わせ窓口：TEL (0774)46-3716

公示 ANNOUNCEMENT

本競技会は財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)公認のもとに国際スポーツ憲章・競技規則に基づいたMFJ国内競技規則ならびに本競技会大会特別規則に基づいて開催される。

This event, authorized by M.F.J., Motorcycle Federation of Japan, will be held in accordance with M.F.J. national race regulations based on the International Sporting Code.

開催競技会 EVENT

名称 '96MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第1戦
鈴鹿スーパーバイク100miles
●同日開催 鈴鹿選手権スーパーNKシリーズ第1戦
'96 SUPER NAKED SUZUKA(東コース)
日程 1996年3月16日(土)・17日(日)
主催 株式会社 鈴鹿サーキットランド
会場 鈴鹿サーキット フルコース(5.86403km)
Event: '96 MFJ All Japan Road Race Championship Series Round 1
SUZUKA SUPER BIKE 100 miles

● Supporting Race: Suzuka Championship SUPER NK Series ROUND 1
'96 SUPER NAKED SUZUKA(EAST COURSE)
Date: March 16, 17, 1996
Organizer: Suzuka Circuitland Co., Ltd.
Place: Suzuka Circuit International Racing Course 5.86403km

ご協賛各社 SPONSORS

株式会社 アライヘルメット
京都機械工具 株式会社
株式会社 三栄書房
株式会社 山海堂
株式会社 三推社
住友ゴム工業 株式会社

株式会社 ダブルエム
日本特殊陶業 株式会社
株式会社 ニュース出版
株式会社 プリヂストーン
モーターマガジン社
ラッキーストライク
(五十音順)

目次 CONTENTS

ご協賛各社/タイムテーブル/レギュレーション抜粋/大会組織——6
鈴鹿スーパーバイク100milesの見どころ——10
スーパーバイク・ライダー紹介——14
スーパーバイクライダー、注目の4人が語る「シーズン開幕に向けて」-16
エントリーリスト——20
GP250レースの見どころ——28
GP250・ライダー紹介——30
GP125レースの見どころ——32
GP125・ライダー紹介——34
スーパーNKレースの見どころ——36
開催直前マールポログランプリ・ジャパン——38
コースガイド——40

タイムテーブル TIME TABLE

	7	8	9	10	11	12	
3/15(金) ●特別スポーツ走行 Free Practice (Untimed)			40 GP125A 30	25 GP125B 10	05 GP250A 55	50 GP250B 35	SB 20
3/16(土)公式予選 ●ゲートオープン Gate Open ●公式予選 Qualifying Practice		7:50	35 GP125A 25	15 GP125B 40	50 GP250A 15	30 GP250B 55	05 SB A 30
3/17(日)決勝レース ●ゲートオープン Gate Open ●ウォームアップ走行 Warm Up ●スタート進行 Starting Procedure ●決勝レース Races ●仮表彰 Provisional Award Presentation		8:00	30 スーパーNK (東コース)45	30 GP125 15	30 GP250 45	SB 15	30 GP125 (15周) 45

●スーパーNKは東コースでの開催です。東コースまでは、徒歩でスプーンカーブからは約15分、ヘアピンカーブからは約10分程です。

大会組織 OFFICIALS

大会会長 President	星島 浩 Hiroshi Hoshijima
大会顧問 Adviser	藤井 璋美 Teruyoshi Fujii
大会顧問 Adviser	木村 吉次 Yoshitsugu Kimura
大会顧問 Adviser	福永 頌 Hiroshi Fukunaga

大会競技役員 Officials of the Base

競技監督 Clerk of the Course	和田 将宏 Masahiro Wada
コース委員長 Chief Course Marshal	橋口 賢 Ken Hashiguchi
副コース委員長 Assistant Chief Course Marshal	坪井 清貴 Kiyotaka Tsuboi
車検委員長 Chief Technical Steward	加藤 慶一 Keiichi Katō
副車検委員長 Assistant Chief Technical Steward	鈴木 一弘 Kazuhiro Suzuki
補給監査委員長 Chief Pit Inspector	神谷 和潤 Kazumasu Mitani
計時委員長 Chief Time Keeper	早川 勉 Tutomu Hayakawa
副計時委員長 Assistant Chief Time Keeper	津村 義則 Yoshinori Tsumura
進行委員長 Paddock Director	鈴木 証二 Shōji Suzuki
副進行委員長 Assistant Paddock Director	加藤 龍志 Tatsushi Katō
ピットパドック管理委員長 Pit-Paddock Controller	内田 修一 Shūichi Uchida
副ピットパドック管理委員長 Assistant Pit-Paddock Controller	飯田 省三 Shōzō Iida
救急委員長 Medical Director	室賀 良久 Yoshihisa Muroga

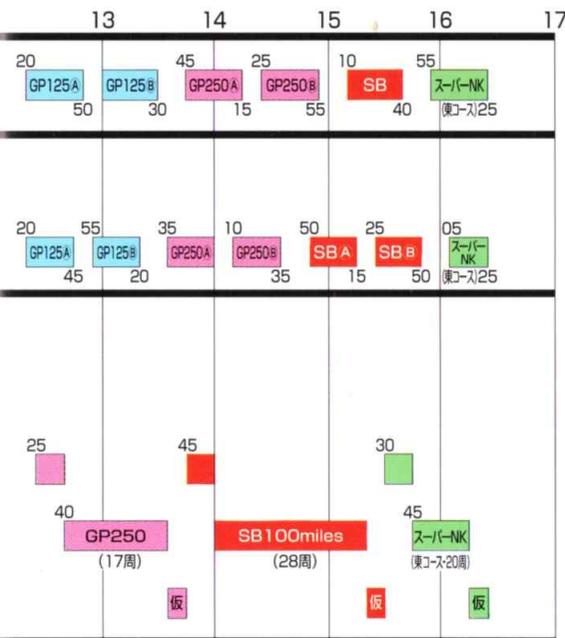
大会組織委員会 Organizing Committee

組織委員長 President	前山 和彦 Kazuhiko Maeyama
組織委員 Member	樽井 良司 Ryōji Tarui
組織委員 Member	三原 哲夫 Tetsuo Mihara

大会審査委員会 Jury of the Meeting

審査委員長 President	杉本 五十洋 Isoyo Sugimoto
審査委員 Member	近藤 幾夫 Ikuro Kondō
審査委員 Member	舘 正信 Masanobu Tachi

レギュレーション抜粋 SUPPLEMENTARY REGULATIONS



第14条 公式予選

- ～1) 公式予選の義務周回数は定めない。ただし、少なくとも1周はラップタイムが計測されなければならない。
- ～2) 決勝レース出場台数は下記のように定める。
全コースレース……44台
東コースレース……33台

第16条 スタート

- ～1) スタートグリッド
 - ①全コースレース
最前列は4台とし、以下各列同数で配される。
ポールポジションは左側とする。
- ～2) 決勝レースのスタート方法はエンジンスタートによるクラッチスタートとする。
- ～5) グリッド上でのタイヤウォーマーの使用は禁止される。(余熱による保温は許される。)

第17条 レース終了

- ～1) トップが各クラス定められた周回を終了した時点でトップにチェッカーが振られる。
- ～2) 各レースの終了は、チェッカー旗によりトップ走者がゴールしたのち5分、東コースは2分を経過した時である。

第35条 レース中における燃料補給

- ～1) スーパーバイククラスは、決勝レース中の燃料補給を行うことができる。
- ～2) 燃料補給とは補給装置を燃料タンクに接続した状態を指す。
- ～3) 燃料タンクは24ℓ以下とする。
- ～4) レース中の車両への燃料補給は一般市販の金属製携行缶が落差式タンクからの補給方法でおこなうこと。ただし、ビットロードよりタンク上面までの高さは2.5mまでとし、それ以上に上げてはならない。
- ～7) 燃料補給中はエンジンを停止しなければならない。
- ～9) 燃料補給は、スタンドに車両を完全に乗せた状況の下で行わなければならない。燃料補給中は、他のいかなる作業(補給に関係しない部分で車両に触れる等)も禁止される。

第39条 賞典

順位	スーパーバイク	GP250	GP125
1位	200万円	70万円	60万円
2位	80万円	40万円	40万円
3位	60万円	35万円	30万円
4位	45万円	30万円	25万円
5位	35万円	25万円	20万円
6位	30万円	20万円	18万円
7位	25万円	18万円	15万円
8位	20万円	15万円	12万円
9位	18万円	10万円	9万円
10位	15万円	8万円	8万円
11位	13万円		
12位	12万円		
13位	11万円		
14位	10万円		
15位	9万円		
以下決勝出走者全員	5万円	3万円	3万円

※2ヒートレースの場合は各ヒートごと上記の1/2とする。
※2ヒートレースで2ヒート目のグリッドについては5万円のグリッド賞が与えられる。

第5章 スーパーNKシリーズ

第61条 参加車両

NK-1・NK-4(競走)

第63条 参加資格

- ～1) ライダーは下記の条件を満たさなければならない。
①開催日に有効なSMSC本コース2輪ライセンス保持者であること。
②'96年度MFJフレッシュマン・国内・国際いずれかのライセンス保持者であること。

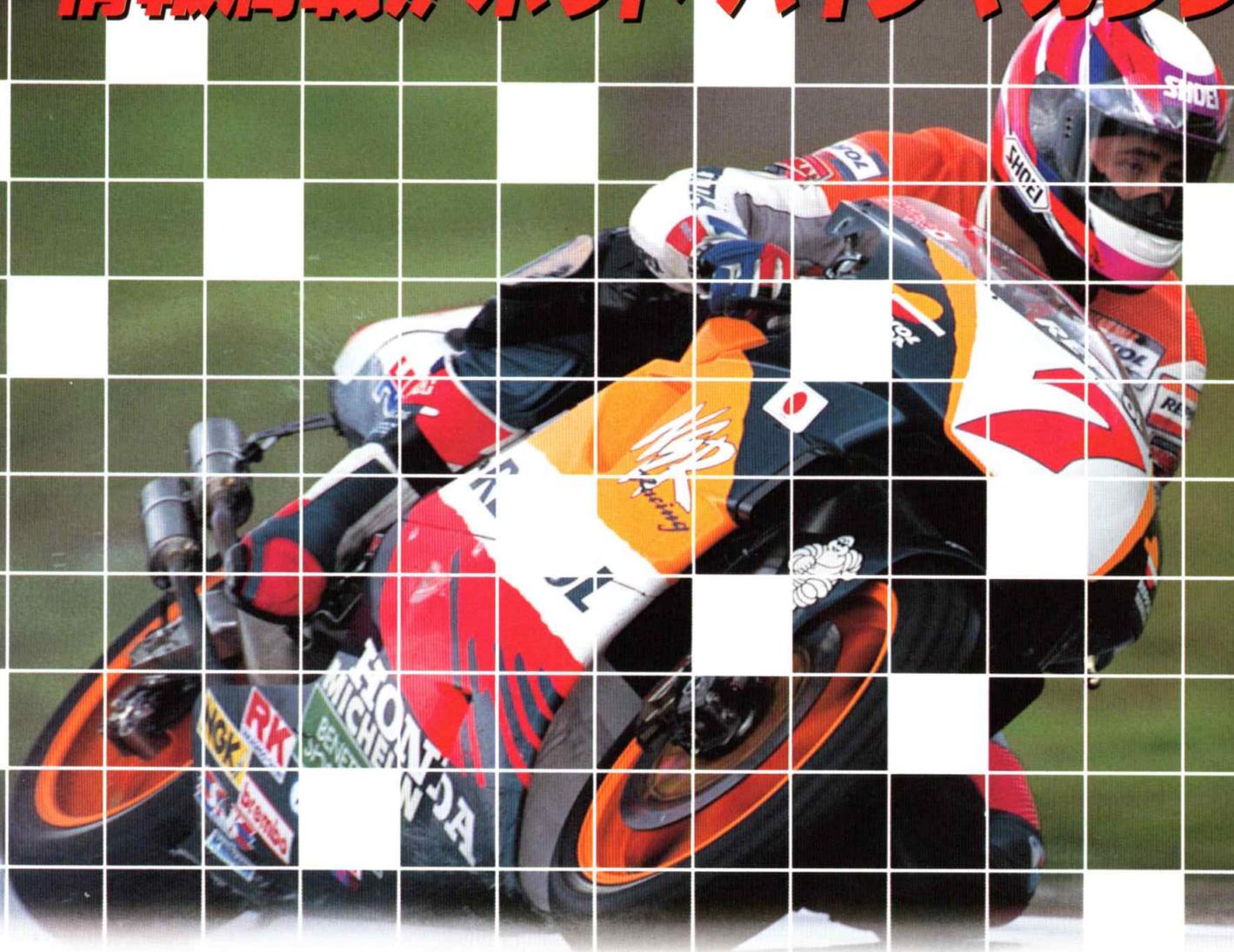
第68条 買取規定

- 1 大会にて6位以内に入賞した車両は、購入希望者がいればNK1車両は240万円、NK4-I車両は120万円以内で販売しなければならない。
- 2) スタート方法について
 - ・通常スタートのウォームアップラップをローリングラップと変更し、ペースカー先導によるローリングスタートとします。
 - ・ローリングは2列で行われ、スタート合図はグリーンランプの点灯とします。
 - ・先頭車両2台はコントロールラインまでペースを保ち、後続車両はコントロールラインまで追越し禁止となります。

- 副救急委員長 Assistant Medical Director: 梶田 勝久 Katsuhisa Masuda
- マーシャルライダー Marshal on the Marshal Bike: 千石 清一 Seiichi Sengoku
- 医師団長 Chief Doctor: 石原 公郎 Kimio Ishihara
- 広報委員長 Public Relation Director: 内田 亨 Toru Uchida
- 事務局長 Secretary General: 樽井 良司 Ryōji Tarui
- 事務局次長 Assistant Secretary: 吉田 隆文 Takafumi Yoshida
- レースアナウンサー Official Announcer: みし奈 昌俊 Masatoshi Mishina
- レースアナウンサー Official Announcer: 稗田 美穂 Miho Hieda
- レースアナウンサー Official Announcer: 川床 享代 Michiyo Kawatoko
- 鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen: 小幡 優子 Yūko Obata
- 鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen: 下條 仁子 Jinko Shimōjō
- 鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen: 長屋 美智留 Michiru Nagaya
- 鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen: 若園 ゆきか Yukika Wakasono

- コース
- 北村 昌彦 田中 義和 岡本 篤 横川 徳城 皆川 正剛 濱村 康弘 増井 郁代 日下部信司
- 土田 雅美 広瀬 宣弘 山本 尚史 村橋 辰男 西村 直人 西野 仁貴 長谷川孝司 西川 隆文 森 智哉
- 早川 範良 広瀬 江里 山本 洋介 鎌倉 義和 川村 勇人 柿市 真司 新海 幸弥 長安 秀幸 安藤 邦彦
- 児玉 康裕 高橋 英樹 伊藤 誠 伊藤 篤 豊田 英行 坂東 正志 福垣 誠司 加藤 慶一 川村 道子
- 立松 誠一 松本 義幸 大野 淳一 伊藤 嘉浩 霜田 博 水田 直樹 渡辺 和司 吉仲 範剛 太田由美子
- 石田 吉孝 宮崎由紀子 三浦 淳一 石田 広之 片山 一洋 高桑 健二 森 麻欽 草野由紀子 草山 正義
- 内田 鉄弥 廣瀬 聡毅 上岡 隆真 辻 文孝 木田 哲治 亀高 秀也 山本 英一 石田 秀治 高橋 公樹
- 芝谷 勝也 山元 達夫 野間 洋 東野 貴士 中森 剛 宇野 貴晴 柴田 亨 石村 貴之 阪田 敏治
- 山下 洋 堀内 章治 入山 晃 児々木仁嗣 前川 敏彦 長谷川賢一 星野 和義 松本 修 ●事務局
- 野木森秀実 小川 恭寛 別所 弘次 阿部 裕司 小川 桂一 雪吹 泰伸 内山 充 上嶋 恵 桜井由紀子
- 上條 泰 河津 孝典 山田 正仁 鳥居 義之 山田 哲武 川端 博則 中林 英樹 池田 俊二 杉山 恵
- 土井 康正 中野 伸彦 田中 義克 阿部 剛彦 佐藤 正成 川端 博則 中林 英樹 池田 俊二 早田 尚代
- 小川 賢二 平阪 匡志 土田 博之 阿部 剛彦 佐藤 秀紀 厚地 保幸 伏谷 裕士 松山 守 村雲 祥子
- 杉山 明人 土屋 弘 武藤 慎一 新開 宏司 西村 裕之 河上 直樹 外松 慎一 佐々木裕介 孤田 幸子
- 田中 昭 and 亀田 道也 福倉 寿之 杉本 暢夫 米田 竜昇 水野 裕隆 宮原 祐一 金子 隆 小林 みわ
- 諸岡 桂 山内 泰 稲見 聖司 桑野 光章 乙部 容子 刑原 弘行 菱木 高明 藤澤 一郎 岡野 勝仁
- 石津 裕史 齋藤 秀孝 加賀爪直樹 田淵 広行 中村 弘和 長 竜哉 中台 道夫 轟 普一郎 北山 貴広
- 市原 斉 安藤 有人 細谷 淳 小野 実 渡辺 俊之 寺田 浩士 中野 直樹 山田 修 山下 一郎
- 河合 正好 高木 克司 池戸 裕二 伊藤 徳廣 篠原 克典 ●車検 ●計時
- 中殿 英敏 平林 克樹 池田 喜人 鈴木 一彦 西村 幸恵 和田 佳子 平野 景 平野 景 森嶋 猛
- 伊藤 昭雄 岡野 太郎 岡 篤志 三谷 元人 大江 孝次 南部 光男 草川 美秀 牧野 真也 小林 美鈴
- 山内 敦 吉川 耕司 板坂 栄次 上村 誠児 松本 芳樹 舟村 昭治 鈴木 美砂 伊部 正之 山田久美子
- 福谷 信行 熊沢 豪 吉野 隆 伊藤 大輔 樋口 昇三 今村 昭治 鈴木 直幸 柳木 博文 永田 幸代
- 廣重 賢一 加藤 暢之 小林 昭文 宮澤 謙作 平田 隆二 堀川 勝明 川島 里美 旭野 達也 大河ひろみ
- 山下 展弘 長森 栄二 宮 芳之 小林 恒太 三吉 剛志 川村 信也 白神 健 石山 満菜
- 堤 誠治 今井 尚洋 小松 晃 中村 良美 矢吹優加子 田邊 良幸 松本 謙一 加藤 伸也
- 中川 治治 江尻 和彦 駒居 憲幸 塩田 勝美 大西 康司 石井 光幸 岩谷 直美 室賀恵都子
- 中村理恵美 山中 公則 柴崎 哲也 増石 利明 安井 欣也 横山 雄一 水口 誠 奥野 圭
- 栗原 重彦 高 哲弘 小林 清成 吉田 英司 佐藤英太郎 福田 民郎 伊藤 敦
- 村上 康彦 安田 浩幸 保地 源也 ●バドック 小川加奈子 前西 彰 永島 信由 池辺久美子
- 橋矢 行弘 三浦 一成 山内 悦夫 繁森 卓也 兼松 一成 上杉 耕二 坂下 直美 市野 尚美
- 山本 信一 尾田 全史 橋本 孝生 片受 朋史 串本 忠男 原田 浩介 坂口 広昭 白杵 美和

情報満載!!ホット・バイクマガジン



まるちバイクマガジン

モトチャンピオン

毎月
6日発売
300円
(税込)
〒156

USEDバイク情報誌

ちゃんぷゆー
champ!!

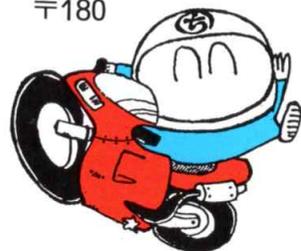
バイク探しならおまかせっ!

毎月
14日発売
280円
(税込)
〒180

株式会社 三栄書房 (販売部)

〒169 東京都新宿区北新宿4-8-16 TEL03-3364-3812 FAX03-3368-1733

※書店に品切れの節は送料を添えて(同額の切手代用可)販売部宛に直接ご注文ください。



1995 125cc World Champion
Haruchika Aoki



勝者の超性能サスペンション<WP>

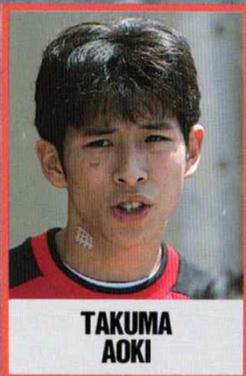
人が肉体をビルドアップして自らの限界に挑むように、
卓越したパーツをビルドインすることで、
そのポテンシャルを限りなく高めていくレーシングマシン。
今、あなたがマシンの脚回りの強化を目指しているなら
本場ヨーロッパのサーキットで誰もが認めるサスペンション<WP>。
時間の壁を越えなければ、超性能の豪脚を組上げる。



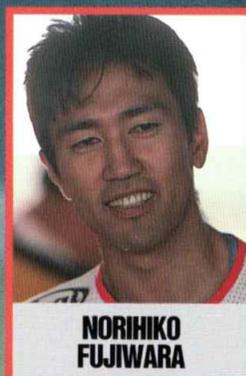
MC INTERNATIONAL CO.,LTD.
4-15-18 SHINMACHI NISHI-KU OSAKA JAPAN 550
TEL.06-536-0901 FAX.06-536-0907



WM PROD. TEAM CO.,LTD.
2-9-33 MIZUHAI HIGASHI-OSAKA OSAKA JAPAN 578
TEL.0729-61-1888 FAX.0729-66-0010



TAKUMA
AOKI



NORHIKO
FUJIWARA

始



1996全日本スーパーバイク開幕!

オフシーズンからすでに話題沸騰のシリーズがいよいよ、ここ鈴鹿で幕を開ける
鈴鹿スーパーバイク100マイル。28週の激戦を制し
96年へ、幸先いいスタートを切るのは…?

SUPER BIKE

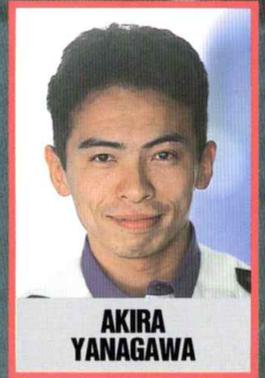
START▶14:00 28LAPS

わくわくするシーズンが始まる。今年のスーパーバイクは、オフシーズンからニューマシン登場、大物ライダーの移籍、レギュレーション改訂と、例年になく何やら騒がしいのだ。その騒がしさは、全日本、ワールドスーパーバイク、AMAと世界中を駆け巡って、そして、この全日本を「これでおもしろいレースが見られないワケがない」というカタチに変えてしまった。

まず、昨年、念願のチャンピオンを獲得したエース青木拓磨を擁するHondaは、なんとチームメイトに無名の新人・武田雄一



KATSUAKI
FUJIWARA



AKIRA
YANAGAWA

動



(17歳)を抜擢し、2台体制で臨む。武田は昨年、国際ライセンス昇格と同時にヨーロッパに渡り、サンダーバイク(ストックバイクを使った600ccスーパースポーツクラス)にCBR600で参戦。だから、国内では無名なのだが、ヨーロッパ各コースを走ったことと、日本では想像できない厳しさを持つストッククラスで揉まれた経験はとて大きい。ホンダはそのコース対応能力と資質を高く評価し、一気にワークス入りさせたのだ。もちろん未知数の部分は多いけれど、ホンダは過去、同様に無名の新人を発

掘、育成してきた実績がある。あの伊藤真一がそうだった。伊藤はいきなり500で大活躍。だから、武田にも、そんなデビューレースでのいきなりを期待したい。

新人の加入で妙にベテランに見えてしまうユース拓磨も、まだ22歳になったばかり。全日本のトップクラスを走るようになって6年目だ。去年はタイトルを取ったものの、本人にしてみれば、本当に自分らしい納得のいく走りではなかったようだ。弟・治親が昨年の125cc世界チャンピオン、兄・宣篤はグランプリのレギュラーメンバー。3兄

弟の中で、ただひとり日本に残り、そしてただひとりワークスで走る拓磨。今シーズン、爆発を期待させるものは十分にある。

ただ、マシン開発を担当し、若いふたりを支えるはずの辻本 聡がオフシーズンのテストで転倒、骨折し、復帰が6月以降?となるため、開発を含めて拓磨にかかる負担が大きくなるのが唯一気がかりだ。またRC45系プライベートでは、驚異的な速さを見せるモリワキが和泉美智夫をフル参戦させる。

ホンダから武石伸也を電撃移籍で獲得し

たカワサキは、エース柳川 明とサテライトチームから獲得した梁 明を加えた3台で最も大きな体制となった。ホンダV4エンジンとともにキャリアを重ねてきた武石は心機一転。マシンが変わってどんな走りを見せるのか。もともとスロットルを開けていくことに関しては、定評のある武石だが、昨年はその開けっぷりにリザルトが伴わなかったから、この移籍にかける意気込みは熱い。

柳川にしても、スズキから移籍した昨年は、マシンにとまどいを見せることが多く、本来のキレの良さや接戦を楽しむようなレース振りがあまりなかった。今年はニューマシンでもあるし、元気のいい走りが期待できる。梁はプライベートながらワークスをいつも脅かし、優勝も経験するなどハングリーさがある。しかもカワサキ系チームに在籍していたから、初めてのワークスマシンといっても、そんなにとまどうことはないだろう（もちろん簡単ではないが）。今年からカワサキは、世界選手権スーパーバイクと全日本でかなり一体化したチーム体制に変更されたため、総合力がパワーアップしていることも見逃せない。

そしてスズキ。大物移籍の発端はここだった。フレームもエンジンもすべてブランニューとなったGSX-Rを得たことで、一気に逆襲態勢だ。カワサキから北川圭一と藤原克昭のふたりが同時に移籍。そのふたりが抜けたことで、カワサキは武石をホンダから、サテライトから梁を獲得し、ホンダは武石の後釜に武田を起用したのだ。スズキの全日本チームは、スポンサーもGPチームと同じラッキーストライク。ニューGSX-Rは、オフシーズンの各地のテストで好タイムを連発し、あらためてその素性の良さが確認されている。いきなり全日本デビューウインを飾ってもおかしくないほど、マシンとライダーの能力はそろっている。またヨシムラは芹沢太麻樹を独自にチューンしたマシンで走らせる。

ヤマハは昨年、不幸な事故で、ずっとヤマハの4ストローク系を引っ張ってきた永井康友を失った。今年、その永井の後を受けて吉川和多留がワールドにフル参戦。ワークスの全日本は藤原儀彦ひとりとなった。チームは少数精鋭だ。ただ、藤原儀彦は、全日本の中では、本当なら断然格の違うライダーだ。全日本500ccの3年連続チャンピオン、ヨーロッパでのグランプリに



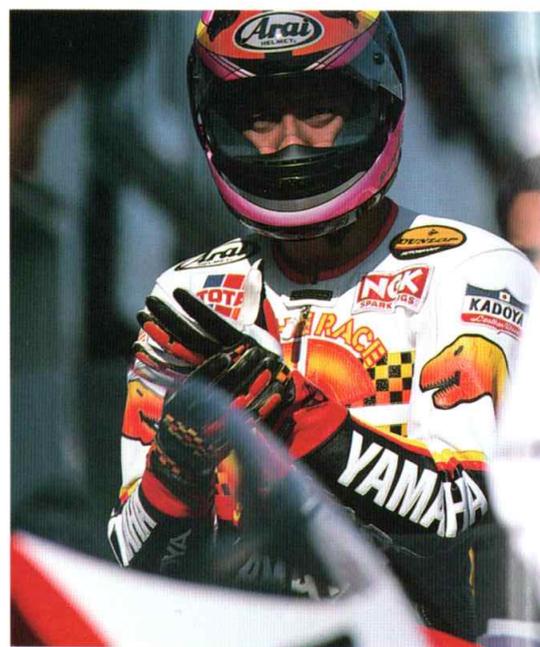
自分に納得がいく走りを目指しV2に賭けるチャンピオン青木拓磨は、「ライバルは自分自身」と言い切る。



宗和孝宏がドゥカティのワークスマシンを引っさげて全日本に完全復帰。



サンダーバイク武者修行帰りの武田雄一への期待は大きい。



ヤマハの藤原儀彦。今季後半はワールドスーパーバイク参戦も。

もスポット参戦しているほどのライダーなのだ。昨年は、ヤマハ本来のマシンバランスの良さがやや崩れていたこともあって、本当の力を見せていない。だから、ヤマハが弱小勢力と見るのは間違いだ。また、ヤマハは力のある芳賀兄弟の弟・紀行をサテライトで走らせる。

さらに、今年はドゥカティ916を走らせるプライベートチームが多くなる。ここ2年、ドゥカティで、いつもワークス1台は確実に食う活躍を見せているチーム・ファンデーションは2年連続で生見友希雄を走

らせる。難しいといわれるドゥカティのセットアップを完璧にこなすチームだから、今年もワークスはうかうかしてはいられない。また、ツインに乗せたら日本でも屈指のウデを持つといわれる鈴木 誠は、片山敬済率いるチームカタヤマからエントリー。メカニックに日本人初のドゥカティワークスメカだった清水和人を入れ、プライベートといえどもイタリア本社との関係は深く、こちらも相当な力を秘めている。さらにAMAを走っていた宗和孝宏がドゥカティで全日本に復帰する。マシンは95

MACHINES

公認キャブの導入と162kgへ車重の統一

今年はレギュレーションの大きな変更があった。まず、AMAのように公認キャブ(燃料噴射を含む)が導入された。今までは、ベース車両のキャブを使うことが義務付けられていて、そのおかげでベース車両は、ストリートで使いやすい負圧キャブ付きのスタンダードモデルとは別に、レース対応のケイヒンFCRやミクニTMRなどの高性能キャブ付きのいわゆるSPモデルが必要だった。SPモデルはストリートで乗りやすく、同時に高価だった。これじゃあ、というところで後着けキャブを許可。条件は1モデル1種類で、ベース車両メーカーのレース用オプションパーツ扱い。価格はベース車両の生産国での、ベース車両の価格の2倍を越えないことなどだ。また、現行車や過去のマシンにも適応される。この制度をうまく使ったのがスズキで、ニューGSX-Rには最初からSPモデルが存在せず、公認キャブはTMRのダウンドラフトタイプのTDMR40で価格は25万円。ヤマハやカワサキもほぼ同価格のFCRを公認キャブとして申請している。

また、車重は2気筒も4気筒も全車162kgに統一され、さらに来年から、ベース車両からのポアアップが禁止される。このため、ドゥカティは現在ワークスも含めて916は全車916ccから955ccにポアアップしているが、来年以降はベース車両に955ccが必要になる。

さて、**ホンダ**RVF/RC45はデビュー3年目を迎え、いよいよ熟成段階に入った。昨年は2本出しマフラーや可変エアファンネルを投入し、ハイパワーはそのままだが燃費も安定させることに成功。一般的に短いファンネルは高速向き、長いものは低中速向きとされていて、それを可変できるのだから画期的。ライダーは乗りやすくなったという。このシステムは、他チームもテストを開始している。

スズキはマシンを一新し、ショートホイールベース(レース仕様で1390mm)、コンパクトなマシンで旋回性を重視。エンジンはとても凝った設計で、ダウンドラフト吸気に適した前傾25度、キャブピッチと同一のシリンダーピッチ、ストレートポートなど、ラムエアを最大限に生かすための条件を整えている。要するに上からまっすぐに燃焼室に混合気を押し込んでやる。シリンダーの方がキャブより幅広だと、吸気ポートが各気筒間で不揃いとなり、燃焼効率が異なるのだ。さらにGPマシンからフィードバックした空力特性に優れたカウルも特徴で、特にテール部は独特だ。

スズキの話題で目立たなくなっているけれど、**カワサキ**もニューマシンだ。そのSPモデルがZX-7RR。ショートストローク化を進めて750cc4気筒勢では最もビッグポアの73mmを採用。ラムエアもツインとなり、スイングアームピボットとキャスター可変機構をベースマシンで備えている。

ヤマハはベースが現行モデルとなるけれど、トータルバランスの高さと、仕上がったときのエンジンの速さは抜群だ。昨年、エンジンと車体のバランスを崩してしまったこともあり、今年はその辺りがカギとなる。

そして**ドゥカティ**916。955ccエンジンは、ある程度スピードの乗ったコーナーからの脱出加速で完全に4気筒を上回る。ただ955ccになってからエンジンの耐久性が落ちたことはやや不安。それとスプリント仕様のため、24ℓフェーエルタンク(916はタンク容量が少い)。スタンダードで17ℓ)とクイックチャージシステムを持たないから、今回の100マイルレース(燃料補給は任意)や200km(燃料補給は必要)では非常に不利だ。ドゥカティ以外でも今回の100マイルを無給油でいけるのか、補給するのかが大問題。ただ8耐でのデータでは、無給油でいけるチームが多い。

また、今年はダンロップが前後16.5インチタイヤを投入してきそうだが(リアの幅はなんと195)。フロントは今までも16.5インチがあったが、リアは初めて。幅を広くしたいが、サイドウォールが足りなくなったために、ホイールサイズを小さくしたのだ(だから外径はこれまでの180/55-17や190/50-17とほぼ同じだ)。これでミシュランがどうするか。全日本のワークス勢でミシュランを使うのは、ホンダのみ。このタイヤ選択も勝敗に大きく影響しそうだ。



HONDA RVF/RC45

水冷90度V型4気筒カムギアトレーンDOHC4バルブ、ボア×ストローク72×46mm、749cc、PGM-FI(電子制御燃料噴射)φ46、アルミツインチューブフレーム+プロアーム



YAMAHA YZF750

前傾35度水冷並列4気筒DOHC5バルブ、ボア×ストローク72×46mm、749cc、ケイヒンFCR4L、アルミツインサブフレーム



SUZUKI GSX-R750

前傾25度水冷並列4気筒DOHC4バルブ、ボア×ストローク72×46mm、749cc、ミクニTDMR40、アルミツインサブフレーム



KAWASAKI ZX-7RR

水冷並列4気筒DOHC4バルブ、ボア×ストローク73×44.7mm、749cc、FVKD41(ケイヒンFCR)、アルミツインサブフレーム



DUCATI 916コルサ

水冷90度L型2気筒DOHC4バルブ、ボア×ストローク96×66mm、955cc、マレリ/ウェーバー電子制御燃料噴射φ50、クロモリトラスフレーム

'96 全日本スーパーバイク開催日程

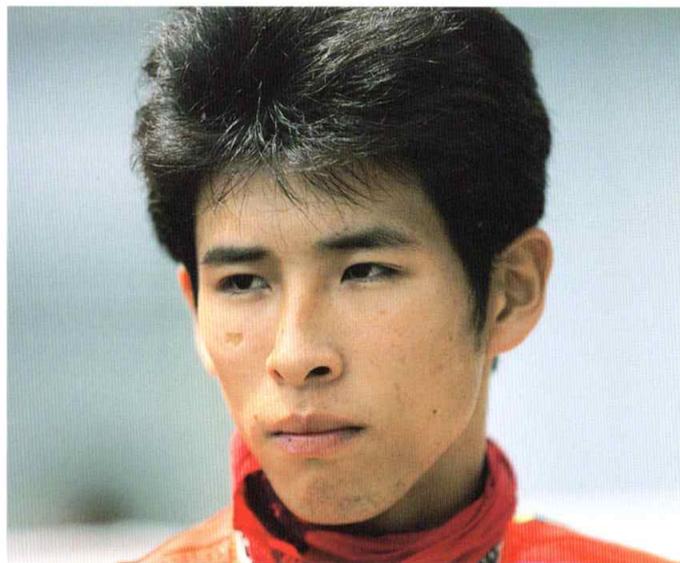
第2戦	4/27・28	スポーツランドSUGO
第3戦	5/18・19	筑波サーキット
第4戦	6/8・9	鈴鹿スーパーバイク200km
第5戦	6/22・23	富士スピードウェイ
第6戦	7/6・7	スポーツランドSUGO※
第7戦	8/10・11	MINEサーキット
第8戦	9/7・8	鈴鹿スーパーバイク2ヒートレース※
第9戦	9/21・22	筑波サーキット
第10戦	10/5・6	TIサーキット・英田
第11戦	11/2・3	スポーツランドSUGO

※印は2ヒート制で開催される。

AMA仕様と96モデルの2台だ。

スズキがニューマシンを得たことで久々にやってきた4大ワークス激突と、加えドゥカティ勢とヨシムラ、モリワキに代表されるペライペーターの実力アップ。ワークスだって、うかうかすると10位以内に入れないという状況だってある。現時点ではダントツの存在はなし。だからといって、ドングリの背くらべではない。非常に高いレベルで実力が接近しているのだ。これが本来のスーパーバイク、これがレースだ。海の向こうではジョン・コシンスキーのドゥカティ入りや、2年連続チャンピオンのカール・フォガティのホンダ復帰、そしてスコット・ラッセルのデイトナ200参戦など、スーパーバイクのビッグニュースが絶えない。そして、本家ワークスの全日本は、それ以上にヒートして開幕を迎えることとなった。

HONDA



1 青木拓磨
Takuma AOKI
HONDA RVF/RC45
TEAM HRC

1974年2月24日生まれ(22歳) A型 群馬県出身
91年国際A級昇格
92年全日本GP250クラス・ランキング4位
93年全日本GP250クラス・ランキング2位
鈴鹿8耐3位入賞(with マイク・スミス)
94年全日本スーパーバイク・ランキング2位
95年全日本スーパーバイク・チャンピオン



45 武田雄一
Yūichi TAKEDA
HONDA RVF/RC45
TEAM HRC

1978年11月29日生まれ(17歳) A型 埼玉県出身
94年国内B級昇格
鈴鹿4耐2位入賞(with 池田吉隆)
95年サンダーバイクシリーズ・ランキング13位

MORIWAKI



21 新井秀也
Syūya ARAI
HONDA RVF/RC45
モリワキレーシング

1965年12月1日生まれ(30歳) AB型 愛知県出身
90年国際A級昇格
91年全日本TT F1クラス・ランキング24位
92年全日本TT F1クラス・ランキング17位
94年全日本スーパーバイク・ランキング23位
95年全日本スーパーバイク・ランキング21位



26 和泉美智夫
Michio IZUMI
HONDA RVF/RC45
モリワキレーシング

1967年10月2日生まれ(28歳) O型 大阪府出身
91年全日本TT F3クラス・ランキング5位
93年全日本TT F1クラス・ランキング12位
94年全日本スーパーバイク・ランキング11位
95年全日本スーパーバイク・ランキング26位

SUZUKI

3 藤原克昭
Katsuaki FUJIWARA
SUZUKI GSX-R750
ラッキーストライク・スズキ

1975年3月27日生まれ(20歳) O型 山口県出身
92年鈴鹿4耐優勝(with 青木治親)
93年国際A級昇格
全日本GP250クラス・ランキング18位
94年全日本GP250クラス・ランキング3位
95年全日本スーパーバイク・ランキング3位
鈴鹿8耐3位入賞(with 柳川 明)



7 北川圭一
Keiichi KITAGAWA
SUZUKI GSX-R750
ラッキーストライク・スズキ

1967年3月24日生まれ(28歳) A型 京都府出身
90年国際A級昇格
全日本TT F1クラス・ランキング13位
91年全日本TT F1クラス・ランキング8位
92年全日本TT F1クラス・ランキング2位
93年全日本TT F1クラス・チャンピオン
94年全日本スーパーバイク・ランキング3位
95年全日本スーパーバイク・ランキング7位

YOSHIMURA



19 芹沢太麻樹
Tamaki SERIZAWA
SUZUKI GSX-R750
ヨシムラ・スズキ・GP1プラス

1972年9月28日生まれ(23歳) O型 埼玉県出身
89年モトクロス国際A級昇格
92年ロードレースへ転向
93年スーパーカップイースタン
シリーズGP250 チャンピオン
94年国際A級昇格
全日本スーパーバイク参戦
95年全日本スーパーバイク・ランキング21位

KAWASAKI



6 柳川 明
Akira YANAGAWA
KAWASAKI ZX-7RR
KRT RR

1971年7月15日生まれ(24歳) O型 鹿児島県出身
90年鈴鹿4耐優勝(with 宇川 徹)
91年国際A級昇格
92年全日本TT F1クラス・ランキング6位
93年全日本TT F1クラス・ランキング5位
94年全日本スーパーバイク・ランキング10位
95年全日本スーパーバイク・ランキング6位
鈴鹿8耐3位入賞(with 藤原克昭)



2 武石伸也
Shin'ya TAKEISHI

KAWASAKI ZX-7RR
KRT RR

1967年10月5日生まれ(28歳) A型 北海道出身
91年国際A級昇格
92年全日本TT F1クラス・ランキング3位
鈴鹿8耐3位入賞(with 岩橋健一郎)
93年全日本TT F1クラス・ランキング2位
94年全日本スーパーバイク・ランキング5位
鈴鹿8耐3位入賞(with 伊藤真一)
95年全日本スーパーバイク・ランキング2位



9 梁 明
Akira RYŌ

KAWASAKI ZX-7RR
KRT RR

1967年10月20日生まれ(28歳) O型 東京都出身
90年国際A級昇格
全日本TT F3クラス・ランキング3位
91年全日本TT F1クラス・ランキング4位
92年全日本TT F1クラス・ランキング19位
93年全日本TT F1クラス・ランキング9位
94年全日本スーパーバイク・ランキング8位
95年全日本スーパーバイク・ランキング9位

YAMAHA



5 藤原儀彦
Norihiko FUJIWARA
YAMAHA YZF750
Y.R.T.

1966年10月8日生まれ(29歳) A型 東京都出身
86年国際A級昇格
全日本GP500クラス・ランキング6位
87~89年全日本GP500クラス・チャンピオン
90・91年全日本GP500クラス・ランキング2位
92・93年全日本GP500クラス・ランキング3位
94年全日本スーパーバイク・ランキング4位
95年全日本スーパーバイク・ランキング5位



10 芳賀紀行
Noriyuki HAGA

YAMAHA YZF750 SP
テクノモーターエンジニアリング

1975年3月2日生まれ(21歳) B型 愛知県出身
92年鈴鹿NB-SP250・ランキング6位
93年国際A級昇格
全日本GP250クラス・ランキング13位
94年全日本スーパーバイク・ランキング9位
95年全日本スーパーバイク・ランキング10位

DUCATI



8 生見友希雄
Yukio NUKUMI

DUCATI 916
チーム・ファンデーション

1966年3月18日生まれ(29歳) A型 静岡県出身
87年国際A級昇格
92年全日本GP250クラス・ランキング11位
93年全日本GP250クラス・ランキング6位
94年全日本スーパーバイク・ランキング15位
95年全日本スーパーバイク・ランキング8位



41 宗和孝宏
Takahiro SŌWA

DUCATI 916
Team SOHWA

1965年9月21日生まれ(30歳) O型 兵庫県出身
86年国際A級昇格
89年全日本TT F1クラス・ランキング8位
90年全日本TT F1クラス・ランキング4位
91年全日本TT F1クラス・ランキング3位
92年全日本TT F1クラス・ランキング8位
93年AMAスーパーバイク・ランキング5位
94年AMAスーパーバイク・ランキング3位
95年AMAスーパーバイク・ランキング21位



76 鈴木 誠
Makoto SUZUKI

DUCATI 916
TEAM・KATAYAMA

1964年7月17日生まれ(31歳) A型 静岡県出身
89年筑波選手権 SP400&F3チャンピオン
90年国際A級特別昇格
全日本GP250クラス・ランキング24位
91年全日本GP250クラス・ランキング19位
92年全日本GP250クラス・ランキング16位
93年全日本GP250クラス・ランキング9位
94年全日本スーパーバイク・ランキング19位

今年も

応援よろしく!!



青木拓磨

自分自身に納得がいく チャンプらしい走りで ガンガンいきます!

95年は全日本スーパーバイクで念願のチャンピオンになれたけど、実は、あの成績で良く取れたなあ〜というのが実感。自分の走りに納得できなかったから、うれしくなかったんだよね。もちろん足のケガがあって、うまくリズムに乗れなかったというのはあった。でも、ケガのせいにはしたくないから、自分に対して怒っていたというか、複雑な気分でおフシーズンに突入したわけ。

とにかく、ケガを直すのが先決だったから、手術して右足のボルトを2コと左鎖骨のプレートを抜いた。入院していたのは1週間くらい。後は、リハビリに専念して、体調をバッチリ整えるぞ!! と誓っていたのに、チャンピオンになったことで、イベントや取材で大忙し。弟の治親が世界GPチャンピオンでしょう。だから、3兄弟そろってのお祝いパーティーやイベントがあって。おまけにウルトラマンのCMにも3人で出演。ねえ? 見てくれた? カッコイイ? なーんて反響が気になったりして。それと、鈴鹿あたりで僕が結婚するなんて噂が流れていたっていうけど、それ、真っ赤なウソ! 正真正銘の独身だからね。

1月末にはマレーシアテスト。チームメイトは武石さんから武田君に替わっていた。今年はみんな、どんどんチームを移籍して、どうなってるの? でも僕は自分の走りをするだけ。マレーシアでは95年型のマシンを確認しながらテスト。マシンのトラブルで、2日間の予定が、1日半しか走れず、タイムアタックというところまでは行かなかったけど1分27秒5。本調子なら25秒台はいけたかなと思うくらい、いい調子だった。それに、今年型のマシンは戦力がアップしているから、シーズンが始まるのが楽しみ。開幕戦からガンガンいきたいね。でもケガはしたくないから、固く攻めたいとも思う。そのへんの微妙な気持ちのバランスを取りながら、チャンピオンらしい走りをしたい。今年こそ、納得できる走りね。

今年のオフは激動でした。移籍についてはずいぶん悩んだ。チャンスをくれたのはカワサキだし、可愛がってもらったしお世話になったから、だから寮を出る時は寂しかった。でも、ポケバイやミニバイクに乗ってた小さい頃から、親父と世界GPのテレビやビデオ見てね、いつか、ここを走って夢みてたから……。どうしても世界GPに行きたいって思い続けてきたのもあったから、スズキからの誘いは魅力的だった。どうしてもって言うてくれる熱意に動かされたんだ。今は、スズキでいい走りをするのがカワサキへの恩返しにもなるって思うから、がんばるしかないと思ってる。

1月から浜松に引っ越ししたんだ。新居は広い2LDKでルーフトバルコニーもある。スポーツジムやテニスコートもついたマンション。いつでもトレーニングできる条件が揃ってるんで、ここに決めた。やっと家具も入って部屋らしくなってきたところ。部屋のインテリアをあれこれ考えるのも意外と楽しいなあなんて思いながら、オフシーズンはあれやこれやと結構忙しかったな。

チームのやる気はすごいよ。もう熱気ムンムンって感じ。毎週、テストコースでテスト。この間のマレーシアテストは、テスト項目がこなし切れないからって、3日間のテストを1日伸ばしたくらい。朝の9時から午後5時まで、昼休みを除いては走りっぱなし、もうヘトヘト、クタクタになるくらい走り込んできた。タイムは1分27秒8。耐久仕様のマシンでのタイムだから、まあまあでしょう? 想像以上にいいマシンです。ひそかに、北川さんと1-2行けるんじゃないかな、なんて思うくらい。でも、まだ鈴鹿でもテストでは走っていないんで、大きいことは言わないようにします。

第1戦は給油があると思うので、燃費計算なしでガンガン飛ばしたい。思いっきり走りたい! いい走りがしたい! 自分でも楽しみなので、みなさんも楽しみにしてください。



藤原克昭

激動のオフシーズン 開幕戦から北川さんとの 1-2を狙っていきます

カーライフでもポールを狙え!



クルマ生活の名アドバイザー

Best Car ベストカー

BI-WEEKLY

毎月10日・26日発売

ひとつのテーマがじっくり読める

ベストカーV 即効版

絶賛発売中! ●定価(各)680円(税込)

いま「買い」の1台はズバリこれ!

極上絶版車に乗る!

ついに規制緩和!!最新対応版

新改造車検 3月27日発売予定

いま「買い」の1台はズバリこれ!



レッドバッジシリーズ

クルマ選びから運転テクニックメンテナンスまで

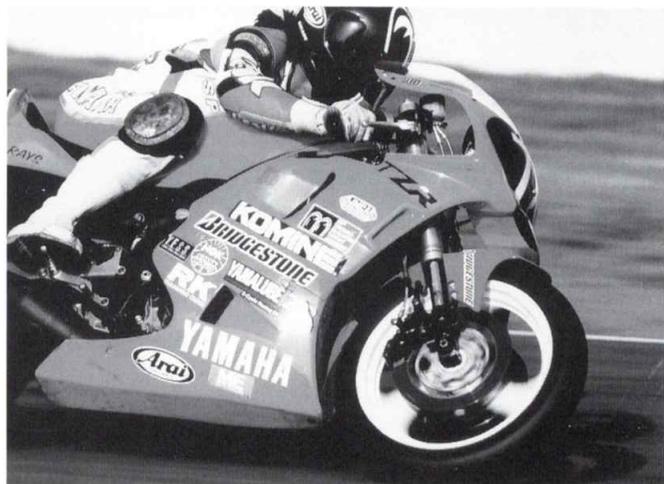
好評発売中!

181 愛車を長生きさせる本 中村隆

183 土屋圭市 必勝足回り秘伝 土屋圭市

182 峠、高速、ストリートの必勝本 志岐貴浩

●定価(各)1000円(税込)



ダリツプ・ダリツプ・ダリツプ。



全国のサーキットの、さまざまなコーナーでそのグリップ力をいかに発揮している
BT-90 RADIAL。
そのグリップ性能の高さも、そのグリップ持続性も、
すべては「V」のために。

RACE TYPE BT-90 RADIAL



BATTLAX

from BRIDGESTONE MOTORSPORT

ENTRY LIST

SUPER BIKE

参加台数61台 決勝出走台数44台
決勝スタート 14:00 28周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
1	A	青木 拓磨 TAKUMA AOKI	22	群馬	ホンダ RVF/RC45	TEAM HRC		
2	B	武石 伸也 SHIN'YA TAKEISHI	28	北海道	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
3	A	藤原 克昭 KATSUAKI FUJIWARA	20	静岡	スズキ GSX-R750	ラッキー 스트ライク・スズキ		
5	B	藤原 儀彦 NORIHIKO FUJIWARA	29	静岡	ヤマハ YZF750	Y.R.T.		
6	A	柳川 明 AKIRA YANAGAWA	24	静岡	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
7	B	北川 圭一 KEIICHI KITAGAWA	28	静岡	スズキ GSX-R750	ラッキー 스트ライク・スズキ		
8	A	生見 友希雄 YUKIO NUKUMI	29	東京	ドゥカティ 916	チーム・ファンデーション		
9	B	梁 明 AKIRA RYŌ	28	兵庫	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
10	A	芳賀 紀行 NORIYUKI HAGA	21	愛知	ヤマハ YZF750SP	テクノモーターエンジニアリング		
13	B	長谷川 克憲 KATSUNORI HASEGAWA	27	千葉	ヤマハ YZF750SP	PJ1 MAX KLEVER		
14	A	鶴田 竜二 RYŪJI TSURUTA	29	愛知	カワサキ ZX-7RR	チームイワキK'sガレージ		
16	B	金安 智彦 TOMOHIKO KANEYASU	34	新潟	ホンダ RVF/RC45	Team 桜井ホンダ		
17	A	小林 敏也 TOSHIYA KOBAYASHI	29	三重	ホンダ RVF/RC45			
19	B	芹沢 太麻樹 TAMAKI SERIZAWA	23	埼玉	スズキ GSX-R750	ヨシムラ・スズキ・GP1 プラス		
21	A	新井 秀也 SHŪYA ARAI	30	愛知	ホンダ RVF/RC45	モリワキレーシング		
22	B	高橋 芳延 YOSHINOBU TAKAHASHI	28	兵庫	カワサキ ZX-7RR	D.D.BOYS Racing		
23	A	西嶋 修 OSAMU NISHIJIMA	25	大阪	カワサキ ZXR750R	BEET IGOL RT		
26	B	和泉 美智夫 MICHIO IZUMI	28	大阪	ホンダ RVF/RC45	モリワキレーシング		
30	A	赤木 哲也 TETSUYA AKAGI	24	静岡	ホンダ RVF/RC45	ホンダ浜友会浜松エスカルゴ		
32	B	原口 祐二 YŪJI HARAGUCHI	28	三重	ホンダ RVF/RC45	爽風会・鈴鹿レーシングチーム		
36	A	泉名 英男 HIDEO SENMYŌ	30	埼玉	ホンダ RVF/RC45	向陽会ドリームレーシングチーム		
37	B	筒井 秀明 HIDEAKI TSUTSUI	29	埼玉	カワサキ ZXR750R	RS-ITOH		
40	A	鎌田 学 MANABU KAMADA	25	三重	ホンダ RVF/RC45	Team 桜井ホンダ		
41	B	宗和 孝宏 TAKAHIRO SŌWA	30	兵庫	ドゥカティ 916	Team SOHWA		
42	A	多賀 雄一郎 YŪICHIRO TAGA	25	兵庫	ホンダ RVF/RC45	TEAM ASA		
43	B	井村 和弘 KAZUHIRO IMURA	24	京都	カワサキ ZXR750R	ボンバー		
44	A	深見 貴広 TAKAHIRO FUKAMI	25	愛知	ヤマハ YZF750SP	クレバーウルフレーシングチーム		
45	B	武田 雄一 YŪICHI TAKEDA	18	埼玉	ホンダ RVF/RC45	TEAM HRC		
46	A	富田 信道 NOBUMICHI TOMITA	28	栃木	ホンダ RVF/RC45	オートテクニクススポーツ		
47	B	佐藤 清和 KIYOKAZU SATŌ	28	栃木	ホンダ RVF/RC45	オートテクニクススポーツ		
48	A	山口 直範 TADANORI YAMAGUCHI		大阪	スズキ GSX-R750	チームギャツビーレーシング		

●SUPER BIKEの見どころ▶10~15ページ

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
49	B	水澤 保 TAMOTSU MIZUSAWA	26	滋 賀	カワサキ ZX-7RR	グリーンクラブ&山科カワサキ		
50	A	松原 泉 IZUMI MATSUBARA	27	埼 玉	カワサキ ZXR750R	RS-ITOH&EPL		
51	B	柳 武志 TAKESHI YANAGI	27	大 阪	カワサキ ZXR750R	チームミスターヒロ&ISF		
52	A	時永 真 MAKOTO TOKINAGA	24	静 岡	ヤマハ YZF750SP	TEAMモトスポーツ鈴覚IRF		
53	B	小林 裕樹 HIROKI KOBAYASHI	26	大 阪	スズキ GSX-R750SP	GARフィールド&タキオンBP		
54	A	西田 浩工 HIROTADA NISHIDA	29	北海道	ホンダ RVF/RC45	くっちゃん未来21チームエラン		
55	B	佐竹 祥語 SHŌGO SATAKE	26	京 都	カワサキ ZXR750R	京都スーパースポーツ ☆		
56	A	織岡 範行 NORIYUKI OROKA	26	京 都	ホンダ RVF/RC45	TEAMVITALSPIRIT		
57	B	中谷 真也 SHIN'YA NAKATANI		兵 庫	カワサキ ZXR750R	チーム阪神ライディングスクール		
58	A	田代 光輝 MITSUTERU TASHIRO	26	福 岡	ヤマハ YZF750SP	YSP博多+ライトスポーツ		
59	B	山中 正之 MASAYUKI YAMANAKA	27	神奈川	ホンダ RVF/RC45	レーシングチーム ハニービー		
60	A	竹見 升吾 SHŌGO TAKEMI	33	大 阪	ヤマハ YZF750SP	クレバーウルフレーシングチーム		
61	B	佐々木 栄司 EIJI SASAKI	28	静 岡	スズキ GSX-R750	JAJA TEAM タイタン		
62	A	賀来 聡介 TOSHIYUKI KAKU	24	東 京	ヤマハ YZF750SP	PJ1 &スガヤスピードRT		
63	B	高橋 徹 TŌRU TAKAHASHI	24	埼 玉	ヤマハ YZF750SP	スーパービルド オザワR&D		
64	A	掛川 啓一 KEIICHI KAKEGAWA	31	神奈川	ヤマハ YZF750SP	PRIZE&ピニフレーム横浜		
65	B	塚本 正章 MASAAKI TSUKAMOTO	24	熊 本	ホンダ RVF/RC45	HONDA熊本レーシング		
66	A	中村 健一郎 KEN'ICHIRO NAKAMURA	27	茨 城	ホンダ RVF/RC45	TEAM CBX		
67	B	尾高 弘訓 HIRONORI ODAKA	32	神奈川	ヤマハ YZF750SP	PRIZE&ピニフレーム横浜		
68	A	川瀬 裕昌 HIROAKI KAWASE	27	大 阪	スズキ GSX-R750	JAJA/KICHO&チェイス		
69	B	國松 俊樹 TOSHIKI KUNIMATSU	30	滋 賀	ホンダ RVF/RC45	チーム ヨシノル		
70	A	中上 晋一 SHIN'ICHI NAKAUE	29	滋 賀	ホンダ RVF/RC45	TEAMVITALSPIRIT		
71	B	北尾 公二 KŌJI KITAO	30	兵 庫	ホンダ RVF/RC45	ライダーズクラブ キタノ RT		
72	A	高嶋 靖生 YASUO TAKASHIMA	30	兵 庫	カワサキ ZXR750R	BEET IGOL RT		
73	B	河村 康成 YASUNARI KAWAMURA	26	熊 本	ホンダ RVF/RC45	HONDA熊本レーシング		
74	A	鈴木 孝之 TAKAYUKI SUZUKI	29	栃 木	ホンダ RVF/RC45	TEAM CBX & PGR		
75	B	青柳 幸広 YUKIHIRO AOYANAGI	24	大 阪	ヤマハ YZF750SP	SWIFT・R MOTUL		
76	A	鈴木 誠 MAKOTO SUZUKI	31		ドゥカティ 916	TEAM・KATAYAMA		
77	B	谷口 仁 HITOSHI YAGUCHI	32	栃 木	ヤマハ YZF750SP	フレンド チーム ハイブリッジ		
831	A	神谷 登 NOBORU KAMIYA	27	神奈川	ホンダ RVF/RC45	レディオ湘南&桜井ホンダ+BS		

ENTRY LIST

GP250

参加台数92台 決勝出走台数44台 決勝スタート 12:40 17周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
1	A	沼田 憲保 NORIYASU NUMATA	29	静岡	スズキ RG-V1'250	ラッキーストライク・スズキ		
5	B	加藤 大治郎 DAJIRO KATO	19	埼玉	ホンダ NSR250	フレールTeam高武 RSC		
6	A	芳賀 健輔 KENSUKE HAGA	22	愛知	ヤマハ TZ250	Y.R.T.		
7	B	森兼 正明 MASAOKI MORIKANE	27	埼玉	ホンダ RS250R	ENDURANCE		
9	A	喜久川 光 HIKARU KIKUGAWA	28	広島	ヤマハTZ250	コンパイル レーシング ヤマハ		
11	B	玉田 誠 MAKOTO TAMADA	19	愛媛	ホンダ RS250R	フレールTeam高武 RSC		
12	A	小倉 直人 NAOTO OGURA	27	新潟	ヤマハ TZ250	IKKO RACING		
13	B	浜口 俊之 TOSHIYUKI HAMAGUCHI	25		ホンダ RS250R	TEAM NUTS & コウサカ		
15	A	松戸 直樹 NAOKI MATSUDO	22	千葉	ヤマハ TZ250	コンパイル レーシング ヤマハ		
16	B	関口 太郎 TARO SEKIGUCHI	20	東京	ヤマハ TZ250	YESSレーシングチーム		
18	A	亀谷 長純 CHOUJUN KAMEYA	19	埼玉	スズキ RG-V1'250	JAJA.RACINGTEAM		
19	B	野田 弘樹 HIROKI NODA	25	奈良	ホンダ RS250R	HIRYU RACING		
20	A	原田 伸也 SHIN'YA HARADA	23	千葉	ヤマハ TZ250	SP忠男レーシングチーム		
21	B	高橋 司 TSUKASA TAKAHASHI	26	福島	ヤマハ TZ250	チームハイブリッジ		
22	A	山川 智之 TOMOYUKI YAMAKAWA	27	宮城	ホンダ RS250R	TOYO・TOWNS-RT		
23	B	辻村 猛 TAKESHI TSUJIMURA	21	大阪	ホンダ RS250R	FCCテクニカルスポーツ		
25	A	榊原 礼視 REJI SAKAKIBARA	25	大阪	ヤマハ TZ250	チームモトスペースTODAYA		
26	B	田村 浩司 KOJI TAMURA	25	京都	ホンダ RS250R	テクニカル スポーツ		
27	A	仲地 万寿夫 MASUO NAKACHI	25	東京	ホンダ RS250R	モトバム レーシングチーム		
28	B	武山 祐介 YUSUKE TAKEYAMA	24	宮城	ヤマハ TZ250	NISSEKIヨコエRS森くま		
30	A	山村 博行 HIROYUKI YAMAMURA	27	兵庫	ヤマハ TZ250	TEAMアタック70C RFO		
31	B	及川 玲 AKIRA OIKAWA	27	神奈川	ヤマハ TZ250	PP-1 with Agip		
32	A	及川 誠人 SEJIN OIKAWA	25	神奈川	ヤマハ TZ250	スポーツライダー&KISSRT		
33	B	中川 直史 NAOSHI NAKAGAWA	23	三重	ホンダ RS250R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム		
36	A	本間 利彦 TOSHIHIKO HONMA	28	愛知	ヤマハ TZ250	Y.R.T.		
37	B	小山 貴信 TAKANOBU KOYAMA	25	兵庫	ホンダ RS250R	αCMaシリウスレーシング★		
38	A	水谷 茂 SHIGERU MIZUTANI	28	東京	ヤマハ TZ250	PLUSμ&M-PROJECT		
39	B	竹内 章徳 AKINORI TAKEUCHI	25	愛知	ヤマハ TZ250	プレイメイトレーシング		
40	A	加藤 達也 TATSUYA KATO	22	愛知	ヤマハ TZ250	プレイメイトレーシング		
41	B	加賀山 幸男 YUKIO KAGAYAMA	21	静岡	スズキ RG-V1'250	JAJA.RACINGTEAM		
42	A	野村 昌広 MASAHIRO NOMURA	21	兵庫	ホンダ RS250R	シリウスレーシングTWE,83		
43	B	内山 仲史 NAKAFUMI UCHIYAMA	25	千葉	ヤマハ TZ250	ガルクラフトコシカワ八千代		
44	A	甲府方 周二 SHUJI KOFUKATA	23	東京	ヤマハ TZ250	エキスパートレーシング		
45	B	名倉 嘉一 KAICHI NAGURA	24	静岡	ホンダ RS250R	JUBET&MSナカミチ		
46	A	長谷川 日出人 HIDETO HASEGAWA	23	静岡	ホンダ RS250R	RPペアー&WOKO'S		
47	B	宮田 剛志 KOJI MIYATA	28	三重	ヤマハ TZ250	PLAYMATERACING		
48	A	増澤 俊哉 TOSHIYA MASUZAWA	24	三重	ホンダ RS250R	チームトクノ・大阪アスファルト		
49	B	高津戸 義彦 YOSHIHIKO TAKATSUTO	23	北海道	ホンダ RS250R	チームトクノ・大阪アスファルト		
50	A	中山 睦生 MUTSUO NAKAYAMA	24	滋賀	ホンダ RS250R			
51	B	匹田 禎智 SADANORI HIKITA	33	埼玉	アプリリア RSV	チームボスコ・モト&デイトナ		
52	A	林 祐孝 MASATAKA HAYASHI	24	愛知	ヤマハ TZ250	RT. YSP刈谷		
53	B	石川 智之 SATOSHI ISHIKAWA	29	静岡	ホンダ RS250R	ホンダ浜友会 浜松エスカルゴ		
54	A	村田 芳成 YOSHINARI MURATA	26	大阪	ヤマハ TZ250	VEGA SPORTS GK		
55	B	吉岡 直毅 NAOKI YOSHIOKA	26	静岡	ホンダ RS250R	ホンダ浜友会浜松エスカルゴ		
56	A	石井 孝之 TAKAYUKI ISHII	26	千葉	ヤマハ TZ250	M'-PROJECT./		
57	B	細口 政詞 MASATSUGU HOSOGUCHI	32	大阪	ホンダ RS250R	カストロールTEAM MAG ²		

●GP250の見どころ▶ 28~30ページ

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
58	A	星山 文孝 FUMITAKA HOSHIYAMA	25	京 都	ホンダ RS250R	チーム Kan's		
59	B	糸井 拓也 TAKUYA ITOI	22	栃 木	ホンダ RS250R	ENDURANCE&PSR		
60	A	伊 昌憲 MASANORI YUN	23	愛 知	ホンダ RS250R	Team 花菱・KOHSAKA		
61	B	田中 大輔 DAISUKE TANAKA	26	愛 知	ヤマハ TZ250	TEAM YDS YAMAHA		
62	A	大木 正和 MASAKAZU ŌKI	28	山 梨	ヤマハ TZ250	ペンタグラム		
63	B	大西 明 AKIRA ŌNISHI	30	大 阪	ヤマハ TZ250	大阪SAMRT カストロール		
64	A	川上 誠 MAKOTO KAWAKAMI	27	大 阪	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
65	B	黒川 圭介 KEISUKE KUROKAWA	29	兵 庫	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
66	A	宮崎 裕二 YŪJI MIYAZAKI	27	兵 庫	ホンダ RS250R	ライダーズクラブキタノRT		
67	B	門田 祐二 YŪJI KADOTA	26	福 岡	ヤマハ TZ250			
68	A	吉田 寛 HIROSHI YOSHIDA	23	鳥 取	ホンダ RS250R	チームトクノ・大阪アスファルト		
69	B	前田 剛 TSUYOSHI MAEDA		奈 良	ヤマハ TZ250	クーベ レーシングプロジェクト		
70	A	家弓 尚久 NAOHISA KAYUMI	27	大 阪	ヤマハ TZ250	VEGA SPORTS		
71	B	長岡 俊宏 TOSHIHIRO NAGAOKA	24	兵 庫	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
72	A	高橋 孝浩 TAKAHIRO TAKAHASHI	23	東 京	ヤマハ TZ250	TEAM HYSTERIC,G		
73	B	政田 征一 SEIICHI MASADA	21	大 阪	ホンダ RS250R	KICHO-RACING		
74	A	小谷田 欽章 YOSHIKI KOYATA	25	東 京	ホンダ RS250R	OXレーシングチーム&石森石油		
75	B	加藤 健治 KENJI KATŌ	23	東 京	ホンダ WMO3B	With me P.R.T.		
76	A	五陸 泰彦 YASUHIKO GORIKU	29	静 岡	ヤマハ TZ250	TEAMモトスポーツ鈴鹿IRF		
77	B	吉田 健二 KENJI YOSHIDA	26	長 野	ホンダ RS250R	TAKA & SBM		
78	A	青木 淳次 JUNJI AOKI	28	長 野	ホンダ RS250R	ESC TAKA&SBM		
79	B	小島 剛 TSUYOSHI KOJIMA	26	神奈川	ヤマハ TZ250	ミクニ クラブペンティスRP		
80	A	栗田 和典 KATSUNORI KURITA	27	大 阪	ヤマハ TZ250	B.BTOM'S&たつみやノ		
81	B	森 修一 SHŪICHI MORI	25	愛 知	ヤマハ TZ250	TEAM YDS YAMAHA		
82	A	千葉 勲 ISAO CHIBA	28	大 阪	ヤマハ TZ250	チームフライングドルフィン		
83	B	浅井 一朗 ICHIRŌ ASAI	22	宮 城	ヤマハ TZ250	Team ita		
84	A	山下 裕介 YŪSUKE YAMASHITA	19	静 岡	ヤマハ TZ250	☆BLACK PANTHER☆		
85	B	小見山 昌之 MASAYUKI KOMIYAMA	28	岡 山	ホンダ RS250R	NAG・RACINGTEAM		
86	A	宮地 泰輔 TAISUKE MIYAJI	27	東 京	ヤマハ TZ250	PALレーシング・MIKUNI		
87	B	池田 光秀 MITSUhide IKEDA	27	栃 木	ホンダ RS250R	オートテック スポーツ		
88	A	小峰 猛彦 TAKEHIKO KOMINE	26	兵 庫	ヤマハ TZ250	T,Kom Racing Co		
89	B	笠 孝臣 TAKAOMI RYŪ	25	熊 本	ホンダ RS250R	HONDA熊本レーシング		
90	A	福沢 巖 IWAŌ FUKUZAWA	27	東 京	ホンダ RS250R	TEAM NUTS,ノ		
91	B	末吉 真也 SHIN'YA SUEYOSHI	25	三 重	ヤマハ TZ250	チーム モトスペース		
92	A	田村 則夫 NORIO TAMURA	29	神奈川	ヤマハ TZ250	ツツミモーターズ 2F		
93	B	伊藤 喜通 YOSHIYASU ITŌ	31	愛 知	ヤマハ TZ250	スーパーキャットRT		
94	A	岡谷 安通 YASUYUKI OKAYA	26	千 葉	ヤマハ TZ250	SP忠男レーシングチーム		
95	B	松尾 清孝 KIYOTAKA MATSUO	27	愛 知	ヤマハ TZ250	TEAM・P-BOX		
96	A	佐藤 秀雄 HIDEŌ SATŌ	26	愛 知	ホンダ RS250R	TEAM-P.BOX		
97	B	内川 正三 SHŌZŌ UCHIKAWA	28	愛 知	ヤマハ TZ250			
98	A	黒川 武彦 TAKEHIKO KUROKAWA	32	栃 木	ホンダ RS250R	SPEED&i-FACTORY		
99	B	斉藤 憲治 KENJI SAITŌ	27	神奈川	ヤマハ TZ250	TEAM TOSH・TEC		
100	A	秋山 恵利香 ERIKA AKIYAMA	24	静 岡	ホンダ RS250R	Team IVY		
101	B	佐々木 裕昌 HIROMASA SASAKI	29	神奈川	ヤマハ TZ250	ミクニ クラブペンティスRP		
102	A	石井 義浩 YOSHIHIRO ISHII	26	兵 庫	ヤマハ TZ250	BikeBoyTom's		
103	B	福岡 豪 GŌ FUKUMA	24	熊 本	ホンダ RS250R	HONDA熊本レーシング		

ENTRY LIST

GP125

参加台数95台 決勝出走台数44台 決勝スタート 10:45 15周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
2	A	東 雅雄 MASAO AZUMA	24	高 知	ホンダ RS125R	チームフジワラBP		
4	B	高尾 和弘 KAZUHIRO TAKAO	27	愛 知	ホンダ RS125R	カストロールTEAMハルクプロ		
5	A	菅谷 慎一 SHIN'ICHI SUGAYA	23	東 京	ホンダ RS125R	ALICE & Calbee		
6	B	小沢 敏明 TOSHIAKI OZAWA	25	埼 玉	ホンダ RS125R	ENDURANCE&彩光		
7	A	小野 真央 MASAFUMI ONO	23	栃 木	ホンダ RS125R	カストロールTEAMハルクプロ		
8	B	上江洲 克次 KATSUJI UEZU	21	愛 知	ヤマハ TZ125	TEAM伸興通産J Racing		
9	A	藤岡 祐三 YUZŌ FUJIOKA	22	愛 媛	ホンダ RS125R	Team フジオカ		
10	B	佐藤 慎也 SHIN'YA SATŌ	25	神奈川	ホンダ RS125R	ライダーズサロン ヨコハマ		
11	A	金井 雅明 MASAOKI KANAI	27	茨 城	ホンダ RS125R	Fine Racing		
12	B	中野 真矢 SHIN'YA NAKANO	18	千 葉	ヤマハ TZ125	SP忠男レーシングチーム		
13	A	大塚 勇二 YŪJI ŌTSUKA	26	神奈川	ホンダ RS125R	TRR-PENSION☆OZ		
14	B	大崎 誠之 NOBUYUKI OSAKI	24	福 岡	ホンダ RS125R	テクノギルドレーシングチーム		
15	A	岡村 崇規 TAKANORI OKAMURA	25	三 重	ホンダ RS125R	チームフジワラBP		
16	B	久保 和寛 KAZUHIRO KUBO	24	京 都	ホンダ RS125R	Jha レーシング		
19	A	早原 邦顕 KUNIAKI HAYAHARA	25		ホンダ RS125R	TEAM NUTS./		
22	B	天野 邦博 KUNIHIRO AMANO	25	東 京	ホンダ RS125R	チーム アクタス		
23	A	渡部 伸 SHIN WATANABE	25	埼 玉	ホンダ RS125R	ホンダブルーヘルメットMSC		
26	B	山下 祐 YŪ YAMASHITA	27	神奈川	ホンダ RS125R	サムシステム&M'-PRO./		
27	A	上野 秀昭 HIDEAKI UENO	29	愛 知	ホンダ RS125R	チーム カツラガワ		
29	B	秋田 貴志 TAKASHI AKITA	22	神奈川	ホンダ RS125R	ALICE & Calbee		
30	A	菊池 寛幸 HIROYUKI KIKUCHI	30	京 都	ホンダ RS125R	チームウイリー		
31	B	鶴飼 孝徳 TAKANORI UKAI	26	三 重	ホンダ RS125R	レーシングガレージ Niwa		
32	A	稲毛田 潤 JUN INAGEDA	29	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky Racing		
33	B	永田 健二 KENJI NAGATA	25	三 重	ホンダ RS125R	TEAM カツラガワ		
35	A	酒井 大作 DAISAKU SAKAI	14	大 阪	ホンダ RS125R	SRS・J		
37	B	水野 生久 IKUHISA MIZUNO	27	愛 知	ヤマハ TZ125	Support Racing		
38	A	新井 守 MAMORU ARAI	24	栃 木	ホンダ RS125R	TEAM・Friendly		
39	B	永塚 良典 YOSHINORI NAGATSUKA	27	茨 城	ホンダ RS125R	TEAM・i-FACTORY		
40	A	松永 弘志 HIROSHI MATSUNAGA	22	千 葉	ホンダ RS125R	テクニカルスピード		
42	B	興梠 義則 YOSHINORI KOUROGI	23	三 重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム		
43	A	伊東 哲 SATOSHI ITŌ	28	東 京	ホンダ RS125R	RACING SUPPLY		
44	B	榊原 浩二 KŌJI SAKAKIBARA	27	愛 知	ヤマハ TZ125	Support RACING		
45	A	坂西 博光 HIROMITSU SAKANISHI	25	三 重	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
48	B	澤田 令 REI SAWADA	18	愛 知	ホンダ RS125R	TEAM-SRS		
49	A	小林 正義 MASAYOSHI KOBAYASHI	25	千 葉	ホンダ RS125R	TEAM AKAGI&Jha		
50	B	水戸 健一 KEN'ICHI MITO	27	愛 知	ヤマハ TZ125	IKKO RACING		
51	A	鈴木 健 KEN SUZUKI	25	埼 玉	ヤマハ TZ125	ガレージ サイトウ		
52	B	松井 剛 TSUYOSHI MATSUI	27	東 京	ホンダ RS125R	M-TUNERacing&PP		
53	A	大久保 修二 SHŪJI ŌKUBO	23	群 馬	ホンダ RS125R	Team-AKAGI		
54	B	羽鳥 誠 MAKOTO HATORI	23	群 馬	ホンダ RS125R	TRR-TeamAKAGI		
55	A	杉野 英史 HIDEFUMI SUGINO	26	三 重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシング		
56	B	大石 義次 YOSHITSUGU ŌISHI	24	東 京	ヤマハ TZ125	EAST CORE T. L山陽		
57	A	佐々木 洋一 YŌICHI SASAKI	24	大 阪	ホンダ RS125R	Tプリズムハウス&テクノギルド		
58	B	依田 裕章 HIROAKI YODA	23	神奈川	ホンダ RS125R	DINKY+WILLCORPO		
59	A	井手 敏男 TOSHIO IDE	25	大 阪	ホンダ RS125R	SPIとヘアーサロン井手		
60	B	楠 大樹 HIROKI KUSU	19	千 葉	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ関東		
61	A	浦尾 隆弘 TAKAHIRO URAO	23	東 京	ホンダ RS125R	サンエイレーシング フォルザ		
62	B	笹島 義久 YOSHIHISA SASAJIMA	27	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky Racing		

●GP125の見どころ▷32~34ページ

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
63	A	岡田 純一 JUN'ICHI OKADA	21	京 都	ホンダ RS125R	Jhaレーシング		
64	B	細谷 陽一 YOICHI HOSOYA	24	三 重	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
65	A	城戸 謙二 KENJI KIDO	19	福 岡	ヤマハ TZ125	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
66	B	亀田 勝太 MASATAKA KAMEDA	24	栃 木	ホンダ RS125R	TEAM i-FとPSR		
67	A	熊谷 孝 TAKASHI KUMAGAI	22	京 都	ホンダ RS125R	S.Rミニナム&クシタニ京都☆		
68	B	酒井 博志 HIROSHI SAKAI	16	大 阪	ホンダ RS125R	SRS・J		
69	A	坂本 真一 SHIN'ICHI SAKAMOTO	21	三 重	ホンダ RS125R	チームヨシハル!!!		
70	B	片平 光浩 MITSUHIRO KATAHIRA	32	千 葉	ホンダ RS125R	RS勅斗雲に五十歩百歩とPIT		
71	A	篠田 英博 HIDEHIRO SHINODA	25	三 重	ホンダ RS125R	爽風会鈴鹿レーシングチーム		
72	B	吉田 英司 EIJI YOSHIDA	24	三 重	ホンダ RS125R	TEAM S.K.R		
73	A	大引 久二博 KUNIHICO ÔBIKI	25	大 阪	ホンダ RS125R	モトイネレーシング&ヨシイR		
74	B	近藤 嘉浩 YOSHIHIRO KONDÔ	26	京 都	ホンダ RS125R	Team PLUS ONE		
75	A	岩田 吉正 YOSHIMASA IWATA	31	三 重	ホンダ RS125R	Team BATTLE ☆		
76	B	大橋 賢 KEN ÔHASHI	22	三 重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ		
77	A	小寺 淳二 JUNJI KODERA	23	岐 阜	ヤマハ TZ125	TEAM伸興通産J Racing		
78	B	岩村 龍司 RYÛJI IWAMURA	19	三 重	ヤマハ TZ125	TEAM伸興通産J Racing		
79	A	大石 吉孝 YOSHITAKA ÔISHI	25	三 重	ホンダ RS125R	チームトクノ 大阪アスファルト		
80	B	竹内 啓之 HIROYUKI TAKEUCHI	21	岡 山	ヤマハ TZ125	YSP津山レーシングチーム		
81	A	山本 茂樹 SHIGEKI YAMAMOTO	27	愛 知	ホンダ RS125R	バイクコゾー住友パークスyrp		
82	B	三田 博正 HIROMASA MITA	24	大 阪	ヤマハ TZ125	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
83	A	橋本 靖雄 YASUO HASHIMOTO	23	山 梨	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
84	B	橋本 一徳 KAZUNORI HASHIMOTO	24	岡 山	ヤマハ TZ125	YSP津山レーシングチーム		
85	A	中田 健二 KENJI NAKATA	28	奈 良	ホンダ RS125R			
86	B	山根 幸男 YUKIO YAMANE	31	東 京	ホンダ RS125R	チームKAZUMAオートオーエ		
87	A	村上 元樹 MOTOKI MURAKAMI	24	東 京	ホンダ RS125R	POSH東京プロジェクト		
88	B	武藤しんじ SHINJI MUTÔ	30	愛 知	ホンダ RS125R	Team KOHSAKA		
89	A	柳 昇一 SHÔICHI YANAGI	28	愛 知	ホンダ RS125R	BIKE・KOZORACING		
90	B	松浦 光利 MITSUTOSHI MATSUURA	25	奈 良	ヤマハ TZ125	YSP津山レーシングチーム		
91	A	阿部 高嗣 KÔJI ABE	26	愛 媛	ホンダ RS125R	伯方島レーシング		
92	B	平間 司 TSUKASA HIRAMA	22	宮 城	ホンダ RS125R	ガレーヂ クニマサ		
93	A	佐藤 泰晃 YASUAKI SATÔ	26	東 京	ホンダ RS125R	Dinky Racing		
94	B	村上 妙子 TAEKO MURAKAMI	18	静 岡	ヤマハ TZ125	TEAMモトスポーツ&鈴覚		
95	A	辻 修 OSAMU TSUJI	26	千 葉	ホンダ RS125R	勅斗雲&五十歩百歩		
96	B	寺本 幸司 KÔJI TERAMOTO	24	大 阪	ホンダ RS125R	プロダクト・スポーツ&フジワラ		
97	A	佐藤 亮 AKIRA SATÔ	24	千 葉	ホンダ RS125R	RT韋駄天&スリーアングル		
98	B	渡邊 淳衛 JUNEI WATANABE	23	福 島	ホンダ RS125R	サンエイR&フォルザ&会田車体		
99	A	吉川 和宏 KAZUHIRO YOSHIKAWA	29	神奈川	ホンダ RS125R	Pentagram&Agip		
100	B	山田 実 MINORU YAMADA	30	千 葉	ホンダ RS125R	Fine Racing		
101	A	太田 英治 EIJI ÔTA	29	熊 本	ホンダ RS125R	HONDA熊本レーシング		
102	B	濱井 則英 NORIHIDE HAMAI	23	京 都	ホンダ RS125R	チームKan's		
103	A	古橋 徹 TÔRU FURUHASHI	23	埼 玉	ホンダ RS250R	オーエックスレーシング チーム		
104	B	山中 信幸 NOBUYUKI YAMANAKA	28	愛 知	ヤマハ TZ125	TEAM YDS YAMAHA		
105	A	中村 昇二郎 SHÔJIRÔ NAKAMURA	25	長 野	ホンダ RS125R	TeamNHS伊那&りんちゃ		
106	B	中川 実 MINORU NAKAGAWA	27	千 葉	ホンダ RS125R	モトバムレオスレーシング		
107	A	金沢 亮 RYÔ KANAZAWA	17	福 岡	ヤマハ TZ125	RSS原口&カナザワ		
109	B	仲城 英幸 HIDEYUKI NAKAJÔ	27	奈 良	ホンダ RS125R	Jhaレーシング		
112	A	上田 昇 NOBORU UEDA	28	愛 知	ホンダ RS125R	FCCテクニカルスポーツ		

ENTRY LIST

SUPER NAKED

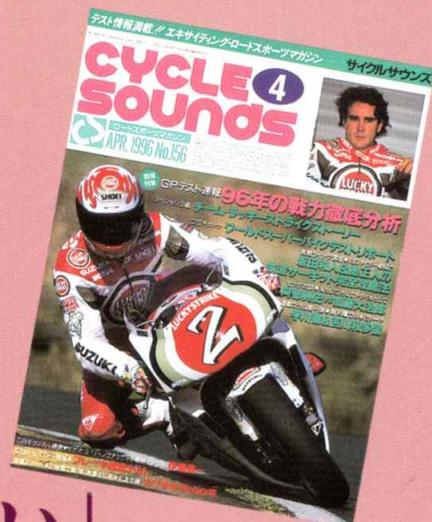
参加台数37台 決勝出走台数33台 決勝スタート 15:45 東コース20周

No.	クラス	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	NK1	大西 敬紀 TAKATOSHI ÔNISHI	25	三重	ヤマハ XJR1200	OVER-RACING	BS		
2	NK1	大崎 隆一 RYÛICHI ÔSAKI	28	千葉	スズキ GSF1200	ヨシムラスズキ・テリカリZZY	DL		
3	NK1	塩見 啓二 KEIJI SHIOMI	23	大阪	スズキ GSF1200	GARフィールドヨシムラスズキ	DL		
4	NK1	宮上 直之 NAOYUKI MIYAGAMI	28	大阪	スズキ GSF1200	コワースレーシングプロジェクト	DL		
5	NK1	藤原 幹也 MIKIYA FUJIWARA	30	大阪	ヤマハ XJR1200	R.T HAVATT	DL		
6	NK1	藤坂 浩二 KÔJI FUJISAKA	27	大阪	カワサキ GPZ900R	チーム.ペンスケ	MI		
7	NK1	樋口 幸博 YUKIHIRO HIGUCHI	35	愛知	スズキ GSF1200	T・モトキッズMOTUL	DL		
8	NK1	古林 重敏 SHIGETOSHI KOBAYASHI	24	大阪	スズキ GSF1200	EYE LINE&GENIUS	MI		
9	NK1	宮崎 祥司 SYÔJI MIYAZAKI	32	三重	カワサキ GPZ1100	TSUKIGI Racing	DL		
18	NK1	小西 良輝 YOSHITERU KONISHI			ホンダ CB1000SF	ヤマモトレーシング			
28	NK1	大島 正 TADASHI ÔSHIMA	32	三重	スズキ GSF1200	VEGA SPORTS キダニ	DL		
41	NK4	菅沢 裕貴 YÛKI SUGASAWA	27	千葉	スズキ GSX400インパルス	TELLY&KALLY-ZZY	BS		
42	NK4	宇佐見 保弘 YASUHIRO USAMI	29	大阪	スズキ BANDIT	VEGA SPORTS	BS		
43	NK4	服部 秀明 HIDEAKI HATTORI	26	愛知	ホンダ CB400SF	B&W KATO RT	BS		
44	NK4	内田 章二 SHÔJI UCHIDA	24	東京	ホンダ CB400SF	チームファニーWINGオクムラ	BS		
45	NK4	米井 茂之 SHIGEYUKI YONEI	24	東京	ホンダ CB400SF	チームファニーWINGオクムラ	BS		
46	NK4	梶原 祥一 SHÔICHI KAJIWARA	24	愛知	ホンダ CB400SF	JPMレーシングチーム	DL		
47	NK4	大西 泰弘 YASUHIRO ÔNISHI	25	大阪	ホンダ CB400SF	アゲインレーシングクラブ	BS		
48	NK4	水上 禎史 TADASHI MIZUKAMI	32	愛知	ホンダ CB-1	蔵次レーシング&シルクロード!	DL		
49	NK4	出口 修 OSAMU DEGUCHI		愛知	ホンダ CB400SF		BS		
50	NK4	内田 洋一 YÔICHI UCHIDA	30	福井	ホンダ CB400SF	KDCサービスTHE FRP	BS		
51	NK4	辻本 貴志 TAKASHI TSUJIMOTO	24	大阪	スズキ GSX400インパルス	ミニレーシング	DL		
52	NK4	牧野 芳男 YOSHIO MAKINO		埼玉	ホンダ CB400SF	RT ZZY+BP&AXIS	BS		
53	NK4	竹内 雅信 MASANOBU TAKEUCHI	24	兵庫	ホンダ CB400SF	LIGHT★HIP&BBK	BS		
54	NK4	瀬野 宏 HIROSHI SENO	29	兵庫	ホンダ CB400SF	LIGHT★HIP&BBK	BS		
55	NK4	番匠 孝亘 TAKANORI BANSHÔ	27	大阪	ホンダ CB400SF	アゲインレーシングクラブ	BS		
56	NK4	大内田 実 MINORU ÔUCHIDA	30	三重	ホンダ CB400SF	P's サブライ	DL		
57	NK4	有江 晋一 SHIN'ICHI ARIE	25	三重	スズキ GSX400S KATANA	MOTOSTEP RT&BP	BS		
58	NK4	上村 芳範 YOSHINORI KAMIMURA	22	大阪	ホンダ CB400SF	アートトラックMIKAWA	DL		
59	NK4	松永 直人 NAOTO MATSUNAGA	28	大阪	ホンダ CB400SF	アゲインレーシングクラブ	BS		
60	NK4	中村 和悦 KAZUYOSHI NAKAMURA	30	愛知	ホンダ CB400SF	IRP&ラントリップ	BS		
61	NK4	中井 貴之 TAKASHI NAKAI	27	京都	カワサキ ZRX	山科カワサキKENRACING	BS		
62	NK4	朝比奈 正 TADASHI ASAHINA	31	大阪	ホンダ CB400SF	エグテック チーム湾岸	BS		
63	NK4	前田 淳 JUN MAEDA	28	京都	ホンダ CB400SF	TEAM HIT	BS		
64	NK4	梨本 圭 KEI NASHIMOTO	25	三重	ホンダ CB400SF	モリワキクラブ	DL		
65	NK4	西川 雅人 MASATO NISHIKAWA	30	大阪	ホンダ CB400SF	オートパブリック大阪ダンロップ	DL		
66	NK4	養田 貴司 TAKASHI MINODA			スズキ BANDIT	レーシングサービスみつばち	BS		

●SUPER NAKEDの見どころ▷36~37ページ

CYCLE SOUNDS

SINCE
1982



「観たい」「知りたい」「参加したい」
サイクルサウンズは、あなたの「たい」に応えます。



サイ
ク
ル
だ
さ
う
ん
ず
!!

ミニバイクから世界GPまで、

ロードレース総合誌「サイクルサウンズ」は、
全国書店にて毎月1日発売です。◎650円（税込）

since 1896
100th
創業100周年

山海堂

〒113 東京都文京区本郷5-5-18 TEL.03-3816-1617 FAX.03-3816-1619



1996 激戦の幕明け

GP250

START▶12:40 17LAPS

今年の250ccは、93、94年チャンピオンの宇川 徹と、昨年プライベート(アプリリア)ながらチャンピオン争いにも加わった宮崎 敦がグランプリにフル参戦することになり、勢力図が大きく変わった。



安定感がカギか? 全日本で唯一のNSRを駆る加藤大治郎。

まず、宇川の抜けたHondaは、このクラスの純ワークス体制を廃止し、サテライトの加藤大治郎(チーム高武RSC)に96ワークスマシンNSR250を託す。ただ、サテライトといっても昨年も、ワークスと同じピットを使うなど、通常のマシンを貸与されたチームとはやや異なり、限りなくワークスに近い。そして96NSRは大治郎だけだ。

大治郎の速さは、今さらいうまでもなく、課題は安定性だけ。また、8耐のスポット参戦でスーパーバイクに乗っても器用にこなしてしまうなど、小柄だけれども、マシンへの対応性もあり、才能を生かすも殺すもちゃんと最後までレースを走りきることに

V2に賭けるチャンピオン沼田に真っ向から戦いを挑む加藤大治郎そして芳賀健輔と本間利彦…その誰もが果敢に勝ちを狙ってくるさて、覇権を握るのは誰だろう

かかっている。

そして、このクラスの話もスズキだ。昨年、エース沼田憲保がチャンピオンを獲得したことで、一気に活気づいた。沼田は引き続きラッキーストライク・スズキで、昨年までスーパーバイクで活躍していた加賀山幸男と亀谷長純がJAJAレーシングから参戦。もちろん全員ワークスRGV-F250だ。91年からほぼ沼田が孤軍奮闘していただけに、この体制強化は何を意味するのか、興味がある。

これで沼田は援軍を得たわけだが、実質的にHondaのワークスとなる大治郎と、この沼田が抜け出た存在。勝って当たり前の

そして、いつもコシンスキーのテールを追いかけて、全日本ではダントツの速さだった。それが度重なる転倒、ケガ、後遺症で本来の走りを失い、全日本GP500に参戦してからも、ついに本間らしさはほとんど見られなかった。ここ数年は、スポット参戦とテストに明け暮れた。その本間は、体調も戻り、フル参戦というカタチでカムバックを狙う。マシンは原田のYZRとは違い、市販TZワークス仕様だ。本間には、これが本物の250cc乗りだ、という走りを期待したい。本間のチームメイトは芳賀健輔。芳賀も本間という先輩がいるから、飛躍が期待できる。また、難波恭司は開発を主眼とする模様で第1戦にはエントリーしていない。

こうしたワークス勢を脅かし、チャンピオンだって狙おうというのが、チームデイトナだ。昨年、宮崎がアプリリアの市販マ



GPの開幕前に実戦テストを兼ね参戦する辻村 猛。



今年アプリリアを駆るのは、世界GP帰りの匹田慎智。

シンでその実力を示し、今年はグランプリへ参戦する宮崎(アプリリア)に替わって、グランプリ帰りの匹田慎智がやはりアプリリアに乗る。また、この第1戦には、グランプリライダー辻村 猛が、両持ちスイングアームが目を引くテクニカルスポーツ製スペシャルRSのテストも兼ねて参戦するから楽しみ。その他RSやTZのプライベート勢も今年はチャンスの年。それだけに、どんな順位でも激しいレース展開となるだろう。

MACHINES

3台登場のワークスRGV-Γ。NSRとの激突が見ものだ

片持ちスイングアーム、右チェーンが特徴のHondaは、NSR。そして市販RSともに従来型を熟成したモデルとなった。NSRとスタンダードRSとの外観の相違はカウル。フロントゼッケン下にラムエアダクトを持つのがNSRだ。75度V型2気筒という基本構成は同じだが、NSRはトラクション性能向上を狙って前後2気筒が常識的な爆発間隔ではなくズレがある。この手法は、他のワークスマシンでも採用している。全日本では最速キングだ。

96TZはワークスTZ-Mからフルフィードバックしたマシンで、スタンダードでラムエアを採用。エンジンは90度V型2気筒。もともとTZはハンドリングに定評があるから課題はパワー。ワークスTZがどんなチューンとなるか楽しみ(95原田TZ-Mは珍しい2バルレキャブだった)。

そして3台のワークスマシンが登場するスズキ。RGV-Γ250は70度V型2気筒で、NSR同様、爆発間隔は通常の角度から位相している。昨年エース沼田がタイトルを獲得し、開発にも勢いに乗っているから楽しみだ。

デイトナが走らせるアプリリアRSVは、90度V型2気筒。けれど他社が1軸クランクシャフト、ケースリードバルブを採用しているのに対して、2軸クランク、ロータリーディスクバルブとヨーロッパの伝統的な手法の名残が見られる(だからキャブは右側面に2個並ぶ)。決まれば速いが、セッティングが難しいといわれる。



今年は力強い援軍を得た、チャンピオン沼田憲保。



HONDA NSR250R



YAMAHA TZ250



SUZUKI RGV-Γ250



HONDA RS250R



APRILIA RSV

状況で、どう戦うか注目したい。昨年までの挑戦者としての気持ちを持続して、沼田らしい攻め抜く走りを見せてほしい。まあ、性格的に守りの走りはしないだろう。

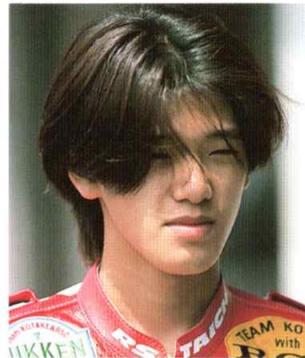
さらにヤマハにもビッグニュースがある。本間利彦の復帰だ。本間は、原田哲也がグランプリにフル参戦以前の時代、ヤマハの250ccではジョン・コシンスキーとともに世界を目指していたライダーだ。



1 沼田憲保 Noriyasu NUMATA

SUZUKI RGV-T250
ラッキーストライク・スズキ

1966年4月26日生まれ(29歳) A型 茨城県出身
91年国際A級昇格
全日本IA250クラス・ランキング14位
92年全日本GP250クラス・ランキング9位
93年全日本GP250クラス・ランキング5位
94年全日本GP250クラス・ランキング2位
95年全日本GP250クラス・チャンピオン



5 加藤大治郎 Daijirō KATO

HONDA NSR250
フレ-Team高武 RSC

1976年7月4日生まれ(19歳) A型 埼玉県出身
93年九州選手権SP250/GP250
/GP125クラス・チャンピオン
94年国際A級昇格
全日本GP250クラス・ランキング7位
95年全日本GP250クラス・ランキング5位



6 芳賀健輔 Kensuke HAGA

YAMAHA TZ250
Y.R.T.

1973年6月1日生まれ(22歳) B型 愛知県出身
92年国際A級昇格
全日本GP250クラス・ランキング14位
93年全日本GP250クラス・ランキング23位
94年全日本GP250クラス・ランキング9位
95年全日本GP250クラス・ランキング6位



7 森兼正明 Masaaki MORIKANE

HONDA RS250R
ENDURANCE

1968年3月10日生まれ(28歳) A型 山口県出身
91年国際A級昇格
全日本IA250クラス・ランキング34位
92年全日本GP250クラス・ランキング15位
93年全日本GP250クラス・ランキング10位
94年全日本GP250クラス・ランキング6位
95年全日本GP250クラス・ランキング7位



9 喜久川光 Hikaru KIKUGAWA

YAMAHA TZ250
コンパイルレーシング ヤマハ

1967年8月26日生まれ(28歳) A型 広島県出身
92年国際A級昇格
93年全日本GP250クラス・ランキング32位
94年全日本GP250クラス・ランキング14位
95年全日本GP250クラス・ランキング9位



11 玉田 誠 Makoto TAMADA

HONDA RS250R
フレ-Team高武 RSC

1976年11月4日生まれ(19歳) O型 愛媛県出身
93年ロードレースデビュー
94年九州選手権SP250&NB250 チャンピオン
95年全日本GP250クラス・ランキング11位



15 松戸直樹 Naoki MATSUDO

YAMAHA TZ250
コンパイルレーシング ヤマハ

1973年7月25日生まれ(22歳) A型 千葉県出身
92年国際A級昇格
93年全日本GP250クラス・ランキング17位
94年全日本GP250クラス・ランキング10位
95年全日本GP250クラス・ランキング15位



23 辻村 猛 Takeshi TSUJIMURA

HONDA RS250R
FCCテクニカルスポーツ

1974年7月4日生まれ(19歳) A型 大阪府出身
92年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング9位
93年世界GP125クラス・ランキング3位
94年世界GP125クラス・ランキング3位
95年世界GP250クラス・ランキング22位



36 本間利彦 Toshihiko HONMA

YAMAHA TZ250
Y.R.T.

1967年3月24日生まれ(28歳) B型 愛知県出身
87年全日本GP250クラス・ランキング3位
88年全日本GP250クラス・チャンピオン
89年全日本GP250クラス・ランキング2位
90年全日本GP250クラス・ランキング9位
91年全日本GP500クラス・ランキング3位
92年全日本GP500クラス・ランキング4位
93年全日本GP250クラス・ランキング2位
94年世界GP500・250クラススポット参戦
95年TBCビックロードレース5位



51 匹田禎智 Sadanori HIKITA

APRILIA RSV
チームボスコ・モト&デイトナ

1962年11月25日生まれ(33歳) A型 長野県出身
90年国際A級昇格
全日本IA250クラス・ランキング16位
92年全日本GP250クラス・ランキング6位
93年全日本GP250クラス・ランキング4位
94年全日本GP250クラス・ランキング5位
95年世界GP250クラス・ランキング21位

1996RFC会員特典概要

- 1996年全日本選手権シリーズ全11戦共通パス
※特別会員のみ(限定数あり)
特別会員にのみ発行されるスペシャルメンバーズカードは、1996年全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦において有効で、このカードを提示すれば、一部エリアを除いて観戦およびパドックエリアまで入場が可能。
- ②観戦券・パドックパスの割引販売
1996年の全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦において、RFC会員カードを提示すると、観戦料金が当日料金の30%OFF、パドックパスが当日料金の10%OFFで割引購入可能。会員1名様に付き1枚のみ有効。また、鈴鹿日本GP・鈴鹿8耐・WSB(SUGO)の各世界選手権の観戦券・パドックパス等も割引販売がある。
- ③ピットウォーク開催サーキットで、参加無料
- ④パドッククラブのご利用
- ⑤入会記念品進呈
- ⑥大会来場記念品またはプログラム進呈(先着50名様)
- ⑦会報の発行
- ⑧レース情報提供サービス(有料)
- ⑨サーキット体験走行などのイベントへの優待参加
- ⑩宿泊観戦パックへの優待割引参加
- ⑪オリジナルグッズの割引購入
- ⑫各サーキットの付帯設備における割引等の特典

●RFC年会費(入会金は不要です)

RFC特別会員/30,000円
RFC一般会員/4,000円

RFC JAPAN
ROAD RACE
OFFICIAL F.C.
Membership

●お問い合わせは…

RFC事務局
名古屋市西区御武新町4-4-19 〒451
☎ 052-565-0501 FAX 052-565-0502

全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦 SUZUKA SUPERBIKE 100miles

●イベント案内(予定)

3/16.Sat 18:00~

ウエルカムパーティー/「GPホールウイング」にて
※トップライダーが集結するウエルカムパーティー
参加料/会員6,500円・一般/7,000円

3/17.Sun 12:00~

トークショー/グランドスタンド前コース上にて
※コース上ステージカーでのライダートークショー
参加無料

3/17.Sun 17:30~

トークandトークバトル/「GPホールウイング」にて
※ライダーの貴重な話が聞けるトークバトル。食事付
参加料/会員5,500円・一般/6,000円

3/17.Sun 17:00~

サーキット体験走行/フルコース2周の体験走行
※国際ライダーの先導によるフルコース2周の体験走行
参加料/会員1,000円・一般/2,000円

★時間・場所・内容等は変更になる場合があります。

●入会・上記イベントについての問い合わせは…
3月16日(土)・17日(日)の2日間、鈴鹿サーキット・グランドスタンド入口横の「RFCロードレースファンクラブブース」で承ります。お気軽にお立ち寄り、お問い合わせ下さい。

MFJ
MOTORCYCLE FEDERATION OF JAPAN

**SUPERBIKE
JAPAN**

ロードレースファンクラブ始動

女性、中・高校生
に事前売り券
発売中!

SUZUKA CIRCUIT MOTOR SPORTS

全日本GT選手権シリーズ第1戦 SUZUKA GT 300km

3/30(土)予選・31(日)決勝

●開催クラス:GT300km/F3/スーパーシルビア
NSX、マクラーレン F1 GTR、スカイライン、スーブラ、MR2、フェラーリ、ポルシェ、ランボルギーニなど国内外のGTカーが熾烈なバトルを繰り広げる全日本GT選手権。いよいよ今月末開催!

■観戦券(税込み)

券種	大人	女性	中・高校生
前売り券	5,000円	3,200円	1,600円
当日券	6,000円	4,000円	2,000円

※3才から小学生の方は遊園地入園料800円(税込み)にて自由席でご観戦いただけます。

■指定席券(税込み)

SI	S2	Aエリア	Eエリア
4,000円	2,000円	1,500円	2,000円

※別途観戦券が必要です。※指定席券は、3才の方から必要です。



全日本選手権

フォーミュラ・ニッポン第1戦鈴鹿サーキット

4/27(土)予選・28(日)決勝

●開催クラス:フォーミュラ・ニッポン/F4/CIVIC/ミラージュ
いよいよ開幕フォーミュラ・ニッポン。ヤングパワーの台頭で、抜きつ抜かれつこのレース展開は手に汗握るスーパーバトルの連続。注目はラルフ・シューマッハーと高木虎之介のバトル。初代チャンピオンを賭けた戦いが今スタートする。

■観戦券(税込み)

券種	大人	女性	中・高校生
前売り券	5,000円	3,200円	1,600円
当日券	6,000円	4,000円	2,000円

※3才から小学生の方は遊園地入園料800円(税込み)にて自由席でご観戦いただけます。

■指定席券(税込み)

SI	S2	Aエリア	Eエリア
4,000円	2,000円	1,500円	2,000円

※別途観戦券が必要です。※指定席券は、3才の方から必要です。



レースチケットのお求めは

- チケットゼン 名古屋☎052-290-0200 大阪☎06-232-9999 東京☎03-5990-9999
- チケットぴあ 名古屋☎052-320-9999 大阪☎06-363-9999 東京☎03-5237-9999
- CNプレイガイド☎03-5802-9999 ●関西プレイガイド協会☎06-456-2555
- ローソンチケット、ダイエー(OMC店)☎06-369-6633 ●ファミリーマート(電話予約はチケットゼン)
- am/pm、MINI STOP☎03-5802-9999
- ヤマト宅急便チケットセンター☎052-303-1813またはFAX052-303-6203でチケットが届きます(送料別途)。
- ミリオンチケットセンター(ミリオンカード会員専用) 名古屋☎052-243-6507 大阪☎06-231-2370 東京☎03-3265-7194
- 鈴鹿サーキット各営業所 ●鈴鹿サーキットチケットセンター ●ホンダ ウェルカムプラザ青山
- ★JAF ★旅行代理店 ★全国主要プレイガイド ※★は観戦券のみのお取扱いです。

●お問い合わせは

鈴鹿サーキットチケットセンター
0593-78-1111

※チケットセンターには、鈴鹿サーキットで開催のレースの詳細がわかるポケットカレンダーをご用意しています。
お気軽にお立ち寄りください。

新たな1を求めて…

GP125

START▶10:45 15LAPS

90年坂田和人、91年小野真央、92年齋藤明、93年加藤義昌、94年宮坂 賢と、チャンピオンを獲得したライダーを確実に世界GPへ送り続けている全日本GP125クラス。近年、このクラスの頂点に登りつめることは、世界GPへの切符を手に入れたことを意味するのだ。そして今年も、昨年チャンピオンの宇井陽一が世界へ活躍の場を

移し、ゼッケン①不在の開幕を迎えることになった。

そんな状況のなか、チャンピオン候補最右翼として真っ先に挙げられるのは、昨年ランキング2位に甘んじたものの、最多勝(4勝)という栄誉を手にした東 雅雄だ。95年は全3戦の鈴鹿ラウンドを完全制覇。特に第7戦の鈴鹿2ヒートレースでは、レ



マールボロGPの前に、上田が鈴鹿で大暴れた。

チャンピオン宇井の世界GP参戦で不在となったゼッケン1をめぐってさらなる混戦が予想されるGP125クラス勝利の先にある世界を目指し、今戦いの火ぶたが切られる

ース序盤のコースアウトで最後尾までポジションを落としながらも決してあきらめず、すぐさま追撃を開始。驚異的な追い上げの末、最後に勝利をもぎ取るという劇的なレースを演じた。その際に東が叩き出した2分17秒158というファステストラップは、それまでの記録を1秒近くも上回る驚異的なタイムで、現在も更新されてい



ない。もはやテクニックと速さでは郡を抜くライダーだけに、最大のライバルだった宇井のいない今年、着実に勝利を積み重ねていく可能性は高い。「去年は4勝しましたが、ノーポイントのレースも多かった。だから今年は全レース表彰台を目標に、そして最終的にチャンピオンを獲得したい。もちろん、開幕戦ははずみをつけるためにも勝ちたい！」と、東自身も並々ならぬ意欲を燃やしている。

さて、この東の鈴鹿連勝記録にストップをかけるのは誰だろう？ まずは、昨年のランキング上位を占める高尾和弘、菅谷慎一、大塚勇二、小澤敏明、小野真央らがその急先鋒となるだろう。特に去年は、宇井、東、茨木 繁の3人が勝利を分けあう形となったため、彼らの勝利への執念は想像以上に強いはずだ。

他にも昨年第7戦鈴鹿でポールポジションを獲得するなど、光る速さを垣間見せる中野真矢。同じく第7戦で全日本デビューを飾った弱冠14歳の酒井大作にもおおいに期待したいところだ。

そして台風の日となりそうなのは、昨年まで世界GPを戦っていた仲城英幸、菊池寛幸の全日本復帰組だ。仲城は昨年の世界GP全13戦中12戦でポイントゲット、さらに第7戦オランダではポールポジションを獲得し、ランキング9位でシーズンを終えている。世界GPでステディな成績を残したライダーだけに、トップ争いにどう絡んでくるか楽しみだ。

そして、うれしいニュースが飛び込んできた。なんと世界GPを戦う上田 昇が、テ



クニカルスポーツから全日本開幕戦にスポット参戦するのだ。3月末の世界GP開幕を前にした今回の上田のエントリーは、4月にここ鈴鹿で開催されるマールポロGPを睨んで、実戦データの収集という目的もあるのだろう。全日本勢を向こうに回し、上田がどのような走りを見せるか。

さて、開幕戦を勝利で飾り、幸先のいいスタートを切るのはい体誰だろう？ そして東の鈴鹿連勝記録は更新されるか？ 今年も125ccクラスは興味の尽きない戦いとなりそうだ。



さて、今年は、東のウイニングラップを何回見られるだろうか？

MACHINES

コンストラクターのチューニング合戦に注目！ ミシュランが全日本GP125参入か？

プロリンクサスペンションと倒立フロントフォークを採用、フルモデルチェンジで登場となったホンダRS125Rの95モデルは、デビューシーズンでいきなり世界チャンピオンを獲得、優れた素性を印象付けた。その96モデルは、フロントフォークの構造変更やリアサスペンションのセッティング変更と、主に足回りに改良が施され、より乗りやすい方向へ。しかし実戦では、96のセッティングが煮詰まるまでの間、96モデルに95の足回りを採用するパターンが見られるだろう。多くのユーザーを誇るRSだけに、実戦データは非常に抱負。トップコンストラクターによるチューニング合戦もますます激しさを増しそうだ。

一方、昨年の全日本を制したヤマハTZ125の96モデルは、開発を担当する茨木が全日本で走らせた仕様と異なり、近い内容となった。エンジン性能の向上、前後サスペンションの見直しなど、実戦を強く意識した操縦性とトラクション性能の見直しが行われている。

そしてビッグニュース。昨年、世界GPで青木治親も使っていたミシュランが、全日本に参入することになる見込みだ。一般ユーザーへの販売開始は3月初頭からで、当面はスリックタイヤ1スペックのみの供給となる模様（レインはシーズン途中から）。開幕戦から登場するかど

うかは別にしても、シーズンが進むにつれてユーザーが増える可能性はある。ミシュランの参入によって、ヨコハマの撤退以降、ダンロップ対ブリヂストンの激突となっていたこのクラスが、新たな戦いの局面を迎えるかもしれない。



HONDA RS125R



YAMAHA TZ125



2 東 雅雄 Masao AZUMA

HONDA RS125R
チーム フジワラBP
1971年 3月24日生まれ(24歳) B型 高知県出身
94年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング12位
95年全日本GP125クラス・ランキング 2位



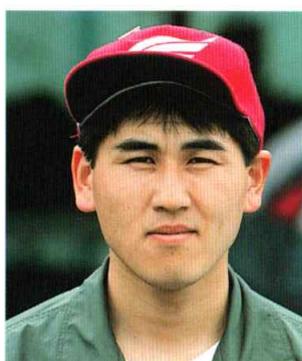
4 高尾和弘 Kazuhiro TAKAO

HONDA RS125R
カストロール TEAMハルクプロ
1968年 5月19日生まれ(27歳) A型 愛知県出身
93年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング 7位
94年全日本GP125クラス・ランキング10位
95年全日本GP125クラス・ランキング 4位



5 菅谷慎一 Shin'ichi SUGAYA

HONDA RS125R
ALICE & Calbee
1972年 8月 5日生まれ(23歳) O型 東京都出身
92年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング16位
93年全日本GP125クラス・ランキング18位
94年全日本GP125クラス・ランキング17位
95年全日本GP125クラス・ランキング 5位



6 小澤敏明 Toshiaki OZAWA

HONDA RS125R
ENDURANCE & 彩光
1970年 3月21日生まれ(25歳) A型 埼玉県出身
92年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング14位
93年全日本GP125クラス・ランキング22位
94年全日本GP125クラス・ランキング29位
95年全日本GP125クラス・ランキング 6位



7 小野真央 Masafumi ONO

HONDA RS125R
カストロール TEAMハルクプロ
1972年 6月 9日生まれ(23歳) A型 栃木県出身
90年国際A級昇格
全日本IA125クラス・ランキング 3位
91年全日本IA125クラス・チャンピオン
93年世界GP125クラス・ランキング18位
94年世界GP125クラス参戦
95年全日本GP125クラス・ランキング 7位



8 上江州克次 Katsuji UEZU

YAMAHA TZ125
TEAM伸興通産J.Racing
1975年 2月25日生まれ(21歳) O型 愛知県出身
93年国際A級昇格
全日本GP125クラス・ランキング21位
94年全日本GP125クラス・ランキング13位
95年全日本GP125クラス・ランキング 8位



9 藤岡祐三 Yūzō FUJIOKA

HONDA RS125R
Team フジオカ
1973年 5月 2日生まれ(22歳) AB型 愛媛県出身
93年国際A級昇格
94年全日本GP125クラス・ランキング 2位
95年全日本GP125クラス・ランキング 9位



12 中野真矢 Shin'ya NAKANO

YAMAHA TZ125
SP忠男 レーシングチーム
1977年10月10日生まれ(18歳) O型 千葉県出身
94年鈴鹿NB-SP250クラス・チャンピオン
鈴鹿 4耐優勝 (with山内俊児)
95年国際ライセンス昇格
全日本GP125クラス・ランキング10位



35 酒井大作 Daisaku SAKAI

HONDA RS125R
SRS・J
1982年 3月12日生まれ(14歳) A型 大阪府出身
94年国内B級特別昇格
95年全日本GP125クラス・ランキング33位
鈴鹿 4耐優勝 (with山本琢磨)



112 上田 昇 Noboru UEDA

HONDA RS125R
FCC テクニカルスポーツ
1967年 7月28日生まれ(28歳) A型 愛知県出身
90年国際A級特別昇格
全日本GP125クラス・ランキング 7位
91年世界GP125クラス・ランキング 5位
92年世界GP125クラス・ランキング 9位
93年世界GP125クラス・ランキング 5位
94年世界GP125クラス・ランキング 2位
95年世界GP125クラス・ランキング12位

RIDING SPORT

RIDERS' SPIRIT FROM
MOTORCYCLE SCENES

SINCE 1982

他誌を寄せつけない機動力

ライディングスポーツは毎月24日発売です。
定価580円(税込み)



二輪レース専門誌

ライディングスポーツ96年5月号は
3月23日(土)発売です。

96GP開幕直前テスト情報

日本GP観戦パーフェクトガイド

ライダー、監督、ジャーナリストが占う日本GP

藤原克昭、RGV-7500でテスト開始

速報、96デイトナ200マイル

(企画は一部変更になる場合があります)

好評連載、坂田和人、阿部典史、宮崎 敦GP参戦日記
スズキRGV-7250SPの実力を診断する
RS/TZイエローページ
パソコン通信で知るレース情報オールガイド
SS 600参戦マニュアル 他

NEWS PUBLISHING CO.,INC.

株式会社 ニューズ出版

〒154 東京都世田谷区三宿2-4-7 広告TEL.03-5430-4441、販売TEL.03-5430-4440/FAX.03-5430-4455



スーパーネイキッド 発進!!

SUPER NAKED

START▶15:45 20LAPS(東コース)

東コースを舞台に、1リッターモンスターNK1とNK4が覇を競う、スーパーNK国際、国内、フレッシュマンと多彩なネイキッド使いがここに集結
同じ土俵の上で、真のキング・オブ・ネイキッドの座を競い合う!

今年から開催されるスーパーNKは、1000ccクラスのNK1と400ccクラスのNK4が混走するというネイキッドバイクの祭典だ。しかも出場ライダーは、国際、国内、

フレッシュマンと多彩。1リッターモンスターと400を同時に見られる楽しいレースだ。
レースはローリングスタートで開始、東コースを20ラップする。メインストレート

ではパワーで勝るNK1が絶対的に有利だが、残る区間は1・2コーナー、S字に逆バンクと、ハンドリングが物を言うコーナーが連続する。その区間では、機敏性に優れた

NK4が激しい追い上げを見せるに違いない。東コースでの開催だからこそ、スーパーNKには予想もつかない展開が潜むのだ。

基本的にNKマシンは、レーサーレプリカではない鉄フレームの市販ネイキッドを改造したもの。ベースマシンは、鈴鹿コンストラクターズコミティの公認車両を使う。NK1は750ccで、NK4はもちろん400ccクラスだ。エンジンのボアアップは禁止。ただNK1は、エンジン改造が許されている。主なところでは、ピストン交換(ボア

アップはできない)、カム、バルブ/バルブスプリング、クランク、コンロッド交換などが可能。NK4はエンジンをいじれない。

キャブレターはNK1の場合、ケイヒンFCRやミニTMRなどへ交換できるが、機種ごとに決められた口径のエアリストリクターを付けなければならない。NK4のキャブは、セッティングパーツを交換してもいいし、キャブを交換してもいい。ただし、公認されたキャブに交換しても、口径28mmのエアリストリクターの装着が義務付けられる(空冷エンジンならエアリストリクターはいらない)。

また、NK1、NK4とも、フロントフォークやリアショックユニット、そしてブレーキ関係の交換、改造は自由(もちろんカーボンブレーキはダメだ)。ホイールも交換でき、タイヤもスリックやレインが使える。

レギュレーションでおもしろいのは、GPZ1100とGPZ900Rには、アンダーカウルを外すことが義務づけられていることだ。ネイキッドらしさを大切にするための処置だ。雰囲気は、80年代初めごろまでのAMAスーパーバイクだ。当時はフレディ・スペンサーがCB750F/900F、エディー・ローソンがKZ1000JやKZ1000R(ローソ

ンレプリカ)、ウェス・クーリーがGS1000SやGSX1000S刀。もちろんフルカウルじゃないから、ライダーもエンジンも良く見えた。この雰囲気を現行車で再現したのがNKなのだから、レースの勝負だけでなく、音とか雰囲気を楽しむのも正しいNKレースの観戦方法だ。

とはいっても、レース。やはり速いのは月木レーシングのGPZ1100。そしてライダーがTT F1全日本チャンピオンにまでなった宮崎祥司とくれば文句なし。追いかけるのはオーバーXJR1200の大西敏紀あたりか。8耐で宮崎と組んでワークスRVFに乗り89年、90年連続2位となった元同僚の大島 正(GSF1200)にも期待したい。またNK4で注目は、CB400SFの前田 淳だ。昨年、NK4-Iチャンピオンに輝いたモリワキの梨本 圭(開幕戦にはエントリーしていない)と6月の鈴鹿で演じた死闘。あの気迫に満ちたライディングが再び見られるか、非常に楽しみだ。



第2戦	4/19・20・21日	マールポロGP併催	2ヒートレース
第3戦	7/19・20・21日	ネイキッドフェスティバル	耐久レース(予定)
第4戦	9/7・8日	スーパーバイク2ヒートレース併催	
第5戦	10/26・27日	ストリートバイク・フェスタ	2ヒートレース
最終戦	12/7・8日	サンデーチャンピオン	

※すべて東コースでの開催となる。

MACHINES

やはり本命は、GPZ1100(NK1)とCB400SF(NK4)か

最速候補は今年も月木レーシングのカワサキGPZ1100だ。このエンジンは公道マシン最速といわれたZZR1100がベースなのだから遅いはずがない。水冷だし、リアはモノショックと現代的な構成も有利。昨年は、エンジン各部のバランス取りやカム交換(ZZR用)、そしてキャブはFCR、前後サスはZXR750用という程度のチューニングだった。今年はどうなるか注目の空冷の2本サスのヤマハXJR1200だ



KAWASAKI GPZ1100



SUZUKI GSF1200



YAMAHA XJR1200

に負けてはいない。フルコースでGPZ1100とほぼ同じ2分17秒台をマークし、オーバーの大西敏紀がNK1初代王者となった。ただし相当のチューニングが必要なマシンではある。

そこで油冷エンジンとリアにモノショックを持つズキGSF1200が注目される。エントリー数も多い。スタンダードでも、パワーと軽快なハンドリングは他のネイキッドとは別物のレベルだから、チューンは少々でもかなりの戦闘力を持つ。油冷GSX-R系の豊富な純正&アフターマーケットパーツが使えるのが強み。

一方NK1は、ホンダCB400SFが全盛だ。

アフターマーケットのチューニングパーツが豊富で、しかも基本構造が同じレーサーレプリカCBR400RRのエンジンパーツが使えるなど有利な面が多いのも原因だ。またモリワキなどからコンプリートマシンも発売されている。今後はズキの新型バンディットやカワサキZRXなどの巻き返しに期待したい。ただヤマハXJR400は空冷で、やや苦しいか。



HONDA CB400SF



HONDA CB-1



SUZUKI GSX400 IMPULSE



SUZUKI GSX400S KATANA

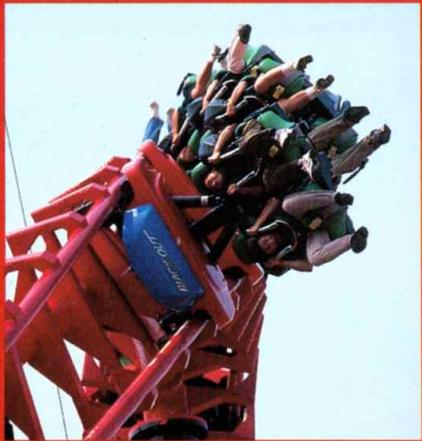


SUZUKI BANDIT



KAWASAKI ZRX

	公認車両	最低重量	エアリストリクター径
NK1	ホンダ CB1000SUPER FOUR	185kg	30φ
	ヤマハ XJR1200	180kg	30φ
	TRX850	165kg	—
	カワサキGPZ1100	185kg	29φ
	GPZ900R	180kg	—
	ZEPHYR1100	180kg	36φ
	ズズキ GSX1100刀	180kg	30φ
NK4	GSF1200	185kg	29φ
	トライアンフ トライデント900	180kg	—
	ホンダ CB400SUPER FOUR	165kg	キャブレターを変更する場合は1気筒あたり28mm、奥行き5mmのエアリストリクターをエンジンとキャブの間(混合気の通路)に入れなければならない。 *空冷車両は除く。
	CB-1	165kg	
	ヤマハ XJR400*	145kg	
	DIVERSION*	145kg	
	カワサキZEPHYR*	145kg	
ZRX	165kg		
ズズキ GSX400S KATANA	165kg		
BANDIT	165kg		
GSX400 IMPULSE	165kg		



宙づり、絶叫、超過激! 人気爆発のコースターがコレ

BLACK OUT

エキサイティングコースター ブラックアウト

ゴールデンウィークに日本初登場(予定)

巨蛋カエキサイティングタワー

SPACE SHOT

スペースショット

楽しさいっぱいのワンダーランド
鈴鹿の魅力はレースだけじゃない!

露天風呂、温水プール、トレーニングジムまで備えた天然温泉「クア・ガーデン」をはじめ、遊園地や世界の味が楽しめるレストラン、広々としたホテルなど充実度満点。実は鈴鹿サーキットは朝から夜まで、めいっぱい遊べるレジャーランドなのだ。

ホテルの前にはテニスコート。夕食後にカラオケで盛り上がるのもOK!



■前売り観戦券(消費税込み)

3日通し券(4/19~21) 大人 9,000円 中・高校生 4,500円
決勝1日券(4/21) 大人 8,000円 中・高校生 4,000円

■当日観戦券(消費税込み)

決勝当日券(4/21) 大人 12,000円 中・高校生 6,000円

*3歳~小学生の方は遊園地入園料800円(税込み)にて、自由席でご観戦いただけます。

■指定席券 4/20・21有効(消費税込み)*4/20土はエリア指定となります。

S1席 12,000円、S2・E席 9,000円、A席 7,000円、

B1席 5,000円、B2・C・D・F席 6,000円

*レース観戦には観戦券が必要です。3歳~小学生のお客様が指定席でご観戦の場合は、中・高校生の観戦券と指定席券が必要です。

★全国主要二輪車販売店ではお得な特別応援席を発売中/
F席通常価格6,000円を3,000円

チケットのお求めは

- 全国主要二輪車販売店 ●チケットセゾン ●チケットびあ ●CNプレイガイド
- 関西プレイガイド協会 ●ローソンチケット、ダイエー(OMC店) ☎06-369-6633
- ファミリーマート(電話予約はチケットセゾン) ●am/pm、MINI STOP ☎03-5802-9999 ●ヤマト宅急便チケットセンター ☎052-303-1813
- JR東海旅行センター、JR東海ツアーズ ●鈴鹿サーキットチケットセンター
- ミリオンチケットセンター(ミリオンカード会員専用)
- 名古屋 ☎052-243-6507 大阪 ☎06-231-2370 東京 ☎03-3265-7194
- ★旅行代理店(JTB、近畿日本ツーリスト、東急観光、日本旅行、名鉄観光)
- ★ホンダ ウェルカムプラザ青山 ★大学生協(指定店) ★全国主要プレイガイド
- *★印は観戦券のみのお取り扱いとなります。

チケットについてのお問い合わせは

鈴鹿サーキットチケットセンター ☎0593-78-1111(代)

意外と近いゾ/鈴鹿サーキット

電車なら東京から新幹線と近鉄特急、大阪と名古屋からなら近鉄特急を利用。



SUZUKA CIRCUIT

〒510-88 三重県鈴鹿市稲生町7992 ☎0593-78-1111(代)

まるごと楽しむ 鈴鹿サーキット

興奮必至/鈴鹿で
異次元のスリルを体感しよう

宙づり、スクリーン、宙がえり、急降下。あらゆるコースターの魅力を一気に体験。超過激なスーパースリルの連続。今までにない新次元のコースターに人気沸騰。これに乗らなきゃオケれるゾ!



兄弟で世界制覇を狙う青木三兄弟の野望

世界でも珍しい三兄弟によるグランプリ出場を果たすが、青木宣篤・拓磨・治親の三兄弟。兄弟3クラス制覇も夢じゃない。



Marlboro Grand Prix of Japan Suzuka 19-21 April 1996

4/19(FRI)▶21(SUN)

鈴鹿サーキットにて開催迫る!



がんばれニッポン! この日本人ライダーに注目だ

王座奪回を狙う坂田和人、原田哲也をはじめ今年、鈴鹿の世界GPに出場するライダーは、20人を超える。最高峰の500ccクラスに挑戦する伊藤真一、岡田忠之、そして阿部典史には悲願の初優勝に期待が高まるところだ。



日本人のゴールドラッシュ 五輪もいよいよ一輪もいよいよぞぞ

バイクで世界一速いのは誰だ？この答えが知りたいなら
オートバイのオリンピック、世界グランプリを見ればいい
世界トップレベルの走りは、ハンパじゃないぞぞ！

オリンピックイヤーの今年、スポーツ界は「目指せアトランタ」で盛り上がっている。たぶんオリンピック期間中は、テレビの前で「がんばれニッポン」と何度も叫ぶに違いない。

で、この「がんばれニッポン」だが、そんなこと言われなくても、バリバリと日本人ががんばっているスポーツがある。ロードレース世界選手権、通称世界GP。オートバイの世界最速を決める最高峰のシリーズが、それだ。

ヨーロッパ、アジア、南米などを転戦し、出場するライダーもイタリア、ドイツ、イギリス、スペイン、アメリカ、そして日本とバラエティーに富む真正正銘の世界一決定戦。こんな世界の大舞台で、日本人が超金メダル級の大活躍を演じているのを、キミは知っているだろうか？

毎戦、トップ争いをするのは当たり前、表彰台独占だって珍しいことじゃ

ない。そしてここ3年は、連続して日本人ライダーが世界一に輝いている。93年は250ccクラスで原田哲也が、94年は125ccクラスで坂田和人が、そして昨年は青木治親（彼は若千19歳）が125ccの世界王者になった。今や日本人ライダーは、世界GPの押しも押されぬ主役なのだ。

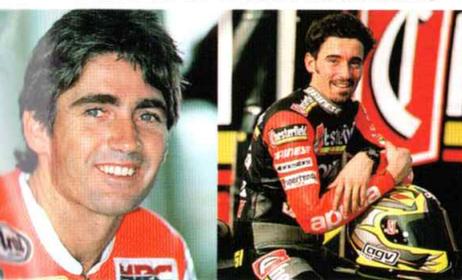
そんな日本人を含めた世界トップクラスのライダーが、4月19〜21日に鈴鹿サーキットに集結する。世界GP第3戦のこのレース、最速の仲間入りを果たした日本人と、迎え討つ外国人ライダーの熱い戦いが今から予想されている。そして日本人ライダーによるトップ争いも！

世界の強豪を相手に日本人が互角以上の戦いを展開する。こんな世紀の大イベントは、やっぱりナマでライブで現地で見ると、やっぱりいい。でもその前に、まずは4月19〜21日、鈴鹿サーキットで声の限りに「がんばれニッポン」なのだ。



興奮必至の超接近戦 コース全域がバトルフィールドだ

世界GPの魅力はなんといっても抜きつ抜かれつの大バトル。どのコーナーでもスキがあればアタックするトップライダーたちの戦いは、チェッカーまで毎週目が離せないぞ。昨年の王者ドゥーハンとピアッジの、他を圧倒する走りは必見だ。



500ccクラスには全日本スーパーバイクで活躍中の藤原克昭も参戦。元気一杯の走りに期待だ！



鈴鹿サーキットクイーンも満開です

いつも笑顔で僕達を迎えてくれる鈴鹿サーキットクイーン。それに世界GPはキャンギャルのレベルだって高いのだ。





SUZUKA CIRCUIT

**INTERNATIONAL RACING COURSE
COURSE GUIDE**

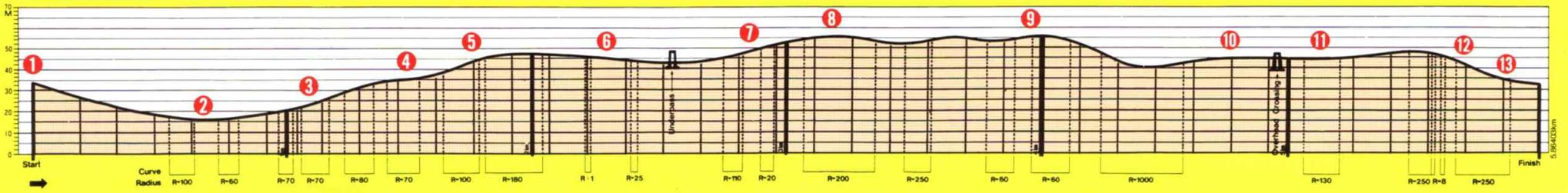
鈴鹿サーキット・国際レーシングコース/データ

完成 : 1962年 9月
 コース長 : 5.86403km (東コース: 2.24363km)
 コース幅 : 10m~12m
 コーナー数 : 20
 メインストレート : 800m
 バックストレッチ : 1200m



- 入口 Gate
- 歩道 Passage
- 救護所 Emergency Medical Center
- 案内所 Information Center
- トイレ Toilet
- サーキットビジョン Circuit Vision
- 記念品コーナー Souvenir Corner
- 軽食 Snack
- 売店 Store
- 荷物預かり所 Clook Room
- 自由席 General Admission Area
- エリア指定席 Reserved Seat

ELEVATION



観戦ポイント

番号はコース図と高低差を表すエレベーションに記してある観戦ポイントの説明です。

① グランドスタンド

レースの流れが一番分かりやすいのがグランドスタンド。スタートやゴールはもちろん、大型のカラーモニター、サーキットビジョンや順位を表示するリーダーボードがあり、レースの展開がわかりやすい。目の前で行われるピット作業の他、ストレートでの抜き合いも楽しめる。

② 1～2 コーナー

第1コーナーは鈴鹿サーキット一番の追い抜きポイント。下りのストレートから、スリップストリームを使って第1コーナーへの飛び込みで追い越していく。そのギリギリまで遅らせるブレーキング競争が勝負のポイントになる。また、スタート直後のトップ争いは大迫力だ。

③ S字コーナー

その名の通りS字の形をしたコーナー。左、右、左と連続するテクニカルなコーナーのため、リズミカルなマシンの挙動が楽しめる。ここをうまく走れるかどうかでタイムに大きく影響するため、ライダーのテクニックとマシンのセッティングを見るにはもってこいの場所。

④ 逆バンク

サーキットのコーナーには、普通すり鉢状のカントと呼ばれる傾斜がついている。だが、ここはその傾斜がほとんどついていないため、ライダーからは逆に傾斜しているように見えるのでこの名がある。ライダーにとってはシビアなコーナーリングが要求される。

⑤ ダンロップコーナー

コースの中で最も上り勾配のきつい地点。その上高速コーナーのため、ライダーにはかなりの横Gがかかるハードなコーナー。マシンが小刻みにドリフトする様子が見えるかもしれない。マシンが駆け上っていく様子は迫力がある。

⑥ デグナーカーブ

64年、このコーナーでE. デグナーというGPライダーが転倒したことからこの名がついた。ふたつのコーナーからなる複合コーナーで、加速してきたマシンが減速し、S字と同じようにうまくリズミカルにクリアできるかがポイントとなる。

⑦ ヘアピンカーブ

名前はもちろん形がヘアピンに似ていることから。デグナーカーブを抜け、加速したマシンが一気に減速するタイトなコーナーで、ここを回るとまたマシンは加速していく。減速、コーナーリング、立ち上がりとのマシンの挙動をじっくり楽しめる。

⑧ 200R

ヘアピンを抜けたマシンが徐々に加速していきながらな高速コーナー。もちろんライダーはアクセル全開だ。ヘアピンで1速に落ちたマシンが次のスプーンカーブに向けてシフトアップしていく様子がよく分かる。

⑨ スプーンカーブ

名前の由来はやはりその形状がスプーンに似ているところから。ここも大きく分けてふたつのコーナーからなるテクニカルなコーナー。ひとつ目ではかなり高いスピードで入るが、ふたつ目は車速が落ちる。ここを速く脱出することが次のバックストレッチでの伸びにつながる。

⑩ 西ストレート

バックストレッチと呼ばれる西ストレートは鈴鹿サーキットで最もスピードの速い地点。グランドスタンド前のメインストレートと並んでマシンのパワー差やスリップストリームを使った攻防が見られる。

⑪ 130R

最高速の出る西ストレートからわずかに減速して飛び込む、ライダーにとっても、見る側にとっても迫力十分の高速コーナー。マシンコントロールの様子も見ることができる。また130R手前がマシンの追い越しポイントにもなっている。

⑫ カシオトライアングル

いわゆるシケインと呼ばれているのがここ。130Rからは下りのラインとなる。高速コーナー130Rを抜けてのブレーキング競争による追い越しポイントのひとつであり、通過速度は全コースを通じて最も低い。撮影にもおすすめのポイント。

⑬ 最終コーナー

下りの長いコーナーで、ストレートや第1コーナーでの追い越しのために重要なポイント。ここで立ち上がりがよくないとメインストレートでの加速に影響し、ひいてはラップタイムにも大きく影響してくる。

コースレコード

CLASS	TIME(km/h)	RIDER	MACHINE	DATE	RACE
スーパーバイク	2'10"278(162.042)	藤原 克昭	カワサキ ZX750R	95.11.11	鈴鹿スーパーバイク100miles
GP250	2'10"655(161.574)	加藤大治郎	ホンダ NSR250R	95. 6.10	鈴鹿スーパーバイク200km
GP125	2'17"158(153.914)	東 雅雄	ホンダ RS125R	95. 9.10	鈴鹿スーパーバイク2ヒートレース
NK1(東コース)	1'01"042(132.320)	大西 敬幸	ヤマハ XJR1200	95. 2.26	'95鈴鹿サンデーロードレース第1戦
NK4(東コース)注	0'59"731(135.224)	菊地 寛幸	ヤマハ XJR400	94. 1. 9	'94鈴鹿サンデーロードレース第1戦

(注)タイムはNK4クラス時に樹立されたコースレコードです。

① The color monitor, a circuit vision, and a leader board allow those in the Grandstand to easily follow the unfolding of the race. ② The First and Second Corners are typical passing points at Suzuka Circuit. Riders display their techniques of braking into and accelerating out of the corners. ③ The S-curve provides riders with a left-right-left series of curve. ④ This corner has practically no cant. To riders, it looks as if the surface cants the other way. A precise cornering technique is essential. ⑤ At the Dunlop corner, riders experience strong lateral G forces, and their machines may undergo drifting. ⑥ The two-curved Degner Curve requires a rhythmic handling technique from the riders. ⑦ At the Hairpin Curve one can enjoy the entire behavior of the machine from the entering of the corner to the accelerated leaving of it. ⑧ At 200R, a gentle high speed curve, riders accelerate their engines all the way by shifting up and opening up to full throttle. ⑨ A rapid escape from the second curve of the two-curved Spoon Curve may be the key to success at the following back-stretch. ⑩ The backstretch is the place for a rider to mark his fastest speed. ⑪ The 130R is a typical fast-speed corner. It is also one of the passing points at Suzuka. ⑫ The Casio Triangle is also a typical passing point. ⑬ The last corner, inclined downward, signifies a long and important passing point before heading into the straight and first corner. If taken poorly, it will hamper acceleration on the main straight and lap times. An ideal place to compare acceleration performance.

鈴鹿サーキット ラップタイム&平均速度					東コース					コース距離×3600 ラップタイム(秒) = 平均時速							
Time	Speed(km/h)				Time	Speed(km/h)				Time	Speed(km/h)						
2分00秒	175.920	2' 10"	162.388	2' 20"	150.789	2' 30"	140.736	2' 40"	131.940	0分50秒	161.541	1' 00"	134.617	1' 10"	115.386	1' 20"	100.963
2' 01"	174.467	2' 11"	161.148	2' 21"	149.719	2' 31"	139.804	2' 41"	131.121	0' 51"	158.373	1' 01"	132.410	1' 11"	113.761	1' 21"	99.716
2' 02"	173.036	2' 12"	159.928	2' 22"	148.665	2' 32"	138.884	2' 42"	130.311	0' 52"	155.328	1' 02"	130.275	1' 12"	112.181	1' 22"	98.500
2' 03"	171.630	2' 13"	158.725	2' 23"	147.625	2' 33"	137.977	2' 43"	129.512	0' 53"	152.387	1' 03"	128.207	1' 13"	110.644	1' 23"	97.314
2' 04"	170.246	2' 14"	157.541	2' 24"	146.600	2' 34"	137.081	2' 44"	128.722	0' 54"	149.575	1' 04"	126.204	1' 14"	109.149	1' 24"	96.155
2' 05"	168.884	2' 15"	156.374	2' 25"	145.589	2' 35"	136.196	2' 45"	127.942	0' 55"	146.855	1' 05"	124.262	1' 15"	107.694	1' 25"	95.024
2' 06"	167.543	2' 16"	155.224	2' 26"	144.592	2' 36"	135.323	2' 46"	127.171	0' 56"	144.233	1' 06"	122.379	1' 16"	106.277	1' 26"	93.919
2' 07"	166.224	2' 17"	154.091	2' 27"	143.608	2' 37"	134.461	2' 47"	126.410	0' 57"	141.702	1' 07"	120.553	1' 17"	104.896	1' 27"	92.839
2' 08"	164.925	2' 18"	152.974	2' 28"	142.638	2' 38"	133.610	2' 48"	125.657	0' 58"	139.259	1' 08"	118.780	1' 18"	103.552	1' 28"	91.784
2' 09"	163.647	2' 19"	151.874	2' 29"	141.681	2' 39"	132.774	2' 49"	124.914	0' 59"	136.899	1' 09"	117.058	1' 19"	102.241	1' 29"	90.753

鈴鹿サーキットチケットセンターでは、鈴鹿サーキットの各種レースチケットを発売中です。



- | | | | | | | |
|--|--|---|--|---|---|---|
| <p>モータース</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 総合案内所 ② 入場券売場 ③ 正面ゲート ④ 救護所 ⑤ ワッシャー ⑥ モーターズポーツランド ⑦ ジョイフル広場 ⑧ めぐりあい広場 ⑨ グランプリ広場 ⑩ サーキットスクエア ■ 遊園地 ⑪ トイカート ⑫ メリーゴーランド・ボロ ⑬ パラ・セイラー ⑭ エアロコモ ⑮ エキサイティングコースター
ブラックアウト | <ul style="list-style-type: none"> ⑯ 外輪船 ⑰ でんでんむし ⑱ ふん・ふん・ハチ ⑲ マッハセブン ⑳ スーパースカイライダー ㉑ フライングシップ ㉒ ジュビター ㉓ スペースカプセル ㉔ ポブウォーカー ㉕ モートピアゴーカー ㉖ スケーティングカー ㉗ ホットロッド ㉘ アクアカート ㉙ ロッキーコースター ㉚ サイドフォース カート ㉛ ミニムーパー ㉜ エキサイティングカー
ブラックアウト ㉝ レーシングカート | <ul style="list-style-type: none"> ㉞ フォーミュラ・グランプリ ㉟ ファンアンドゲーム ㊱ パーチャルファクトリー ■ ワールド・ショッピング・ストリート ① INDY500 ② セレクトショップ ③ ベネトン ④ フェニックス/ティレル ⑤ PIAA ⑥ サーキットプラザ ⑦ サーキットファミリー ■ 売店 ⑧ おみやげ「スーベニア」 ⑨ おみやげ「シェーレ」 ⑩ おみやげと雑貨の店「アゼア」 ⑪ アメリカ雑貨の店 ⑫ ミジェットカー ⑬ サーキットストア ⑭ レーシングカート | <p>リゾート</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リゾート施設/サーキットホテル ① アクア・フォレスト (アイススケート場、夏期はプール) ② バターゴルフ ③ テニスコート ④ はたん苑 ⑤ 万葉の森 ⑥ ボウリング場 ⑦ ホテルフロント ⑧ コテージC ⑨ ロッジD・E ⑩ ロッジF ⑪ ホテル メヌエットG ⑫ ホテル メヌエットJ ⑬ ホテル メヌエットK ⑭ ホテル メヌエットL ⑮ ホテル メヌエットM | <ul style="list-style-type: none"> ⑯ ログキャビン・KARAOKE/ハウス ⑰ キャンプ場 ⑱ ゴルフ練習場 ⑲ ゴルフショートコース ⑳ 天然温泉クア・ガーデン ㉑ レストラン/スナック ㉒ イタリア料理:カンパネラ ㉓ 中国四川料理:樓蘭 ㉔ すし:浜風 ㉕ てん・ふら:花霞 ㉖ 和風レストラン:あじさい ㉗ グランドレストラン ㉘ ラウンジメヌエット ㉙ プーランジュリー・ド・グランプリ マクドナルド ㉚ カフェテラス:チボリ ㉛ うどんコーナー ㉜ コスモス | <ul style="list-style-type: none"> ⑰ ソンブレロ ⑱ ワッピースナック ソシアル ① ハーモニーホール ② グランプリホール ③ グランプリホールウイング ④ サーキットホール ⑤ ホールメープル ⑥ 水上ホール ⑦ さつきホール ⑧ オーキッドルーム ⑨ 汎用ホール ⑩ 交通教育センター ⑪ モーターサイクリングスクール ⑫ 研修会場:あかしや ⑬ 研修会場:あすなろ ⑭ 研修会場:すずかけ ⑮ 研修会場:あすなろ ⑯ 研修会場:けやき | <ul style="list-style-type: none"> ⑰ 鈴鹿国際フォーラム・ロジック I ⑱ 運動会場 ⑲ ホンダコレクションホール モータースポーツ ① 国際レーシングコース ② グランドスタンド ③ サーキットカードF400・R400 ④ グランプリスナック ⑤ コントローラタワー ⑥ ビット ⑦ バックサロン ⑧ モトクロス場 ⑨ SMSC事務所 ⑩ 第1バック ⑪ 第2バック ⑫ 第3バック ⑬ 第4バック ⑭ レースチケットセンター |
|--|--|---|--|---|---|---|

WC トイレ WC ベビーベッド設置トイレ WC ベビーベッド設置車椅子可能トイレ P 駐車場



HONDA COLLECTION HALL

ホンダコレクションホール

第3回「夢の追求」



スクーターや軽自動車など、生活を便利にする製品から、世界的レースの頂点を目指して開発されたマシンまで、様々な夢を追求しつづけたホンダの歩みを紹介します。

■ 入館料/大人(中学生以上) 300円
子供(小学生) 200円

■ 開館時間
平 日 10:00~17:00
土・日・祝 10:00~17:30
(入館受付終了は閉館30分前)

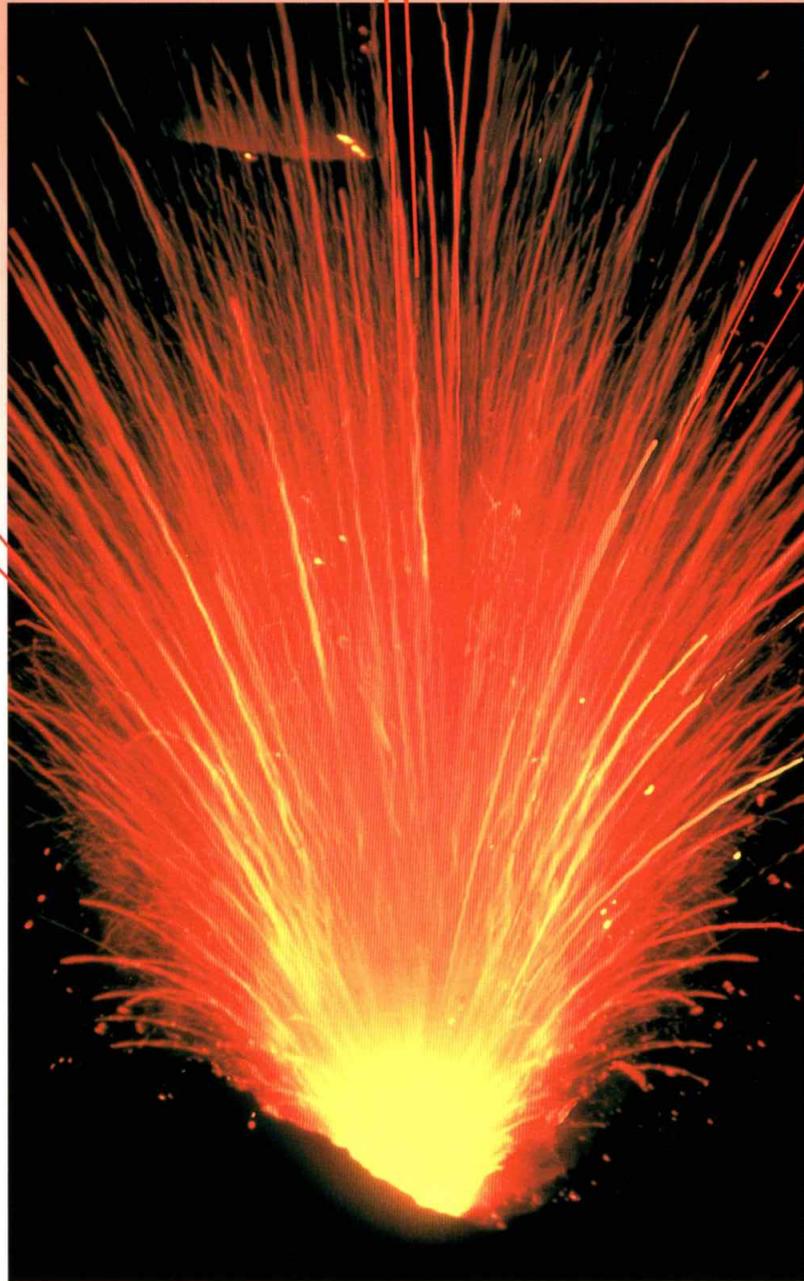
ゆうえんちモータースレースファン割引

鈴鹿スーパーバイク100milesのチケットをお持ちの方には以下の特典がございます。ぜひご利用ください。

- のりもの乗り放題、プール入場無料のパスポート、通常大人3,500円を2,500円(税込み)にてご利用いただけます。
※パスポートは園内チケット売場にて、レースチケットをご提示のうえお求めください。
- パスポートをお求めいただくと、お気軽にレース体験ができるモーターズポーツランドのレーシングカートと、ミジェットカー、通常1回1,500円が1,000円(税込み)にてご利用いただけます。



The Power of Wonder



イグニッションキーを回したその瞬間の手応えが明らかに違う。
不思議なくらいアイドリングに落ち着きがでてきた。
しかも加速フィーリングが滑らかで、見違えるようだ。
NGK Vシリーズプラグ。
その時から、
小気味良い走りが始まる。

NGK **V** **シリーズプラグ**



日本特殊陶業

DUNLOP
DRIVING TO THE FUTURE

オレは、ダンロップ。

GRANDPRIX RIDER
KAZUTO SAKATA

なんたって究極は、グリップだ。
レーシングライダーにとって、
実戦ではマシンよりタイヤがキメ手になる。
とくにグリップが足りないタイヤはまったくダメだね。
コントロール性は、グリップの次に語られるもの。
横にスライドしても前へ前へと進んでいく。
そして、コーナーをしっかりと立ち上がっていく。
ライダーにヤル気を起こさせるタイヤでなければならない。
いわば勝利のエモーションの原動力。
それがグリップだと思う。だから、オレはダンロップ!

Rideen
GPR-50 SP

T900GP



ダンロップは
安全めざしタイヤ!